

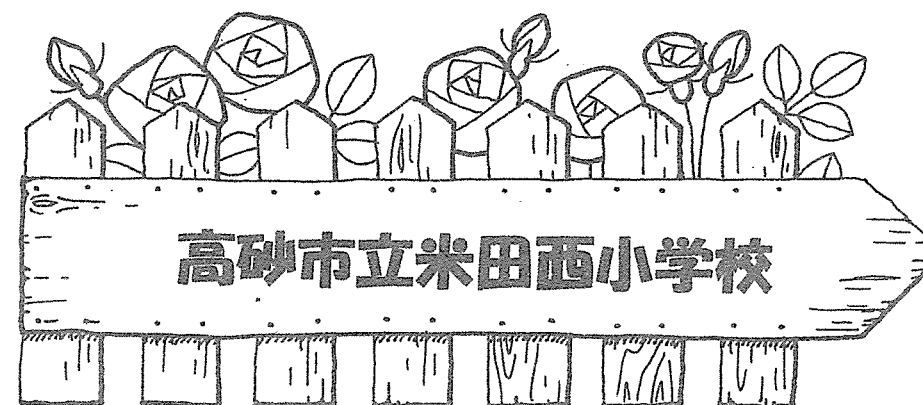
研究テーマ

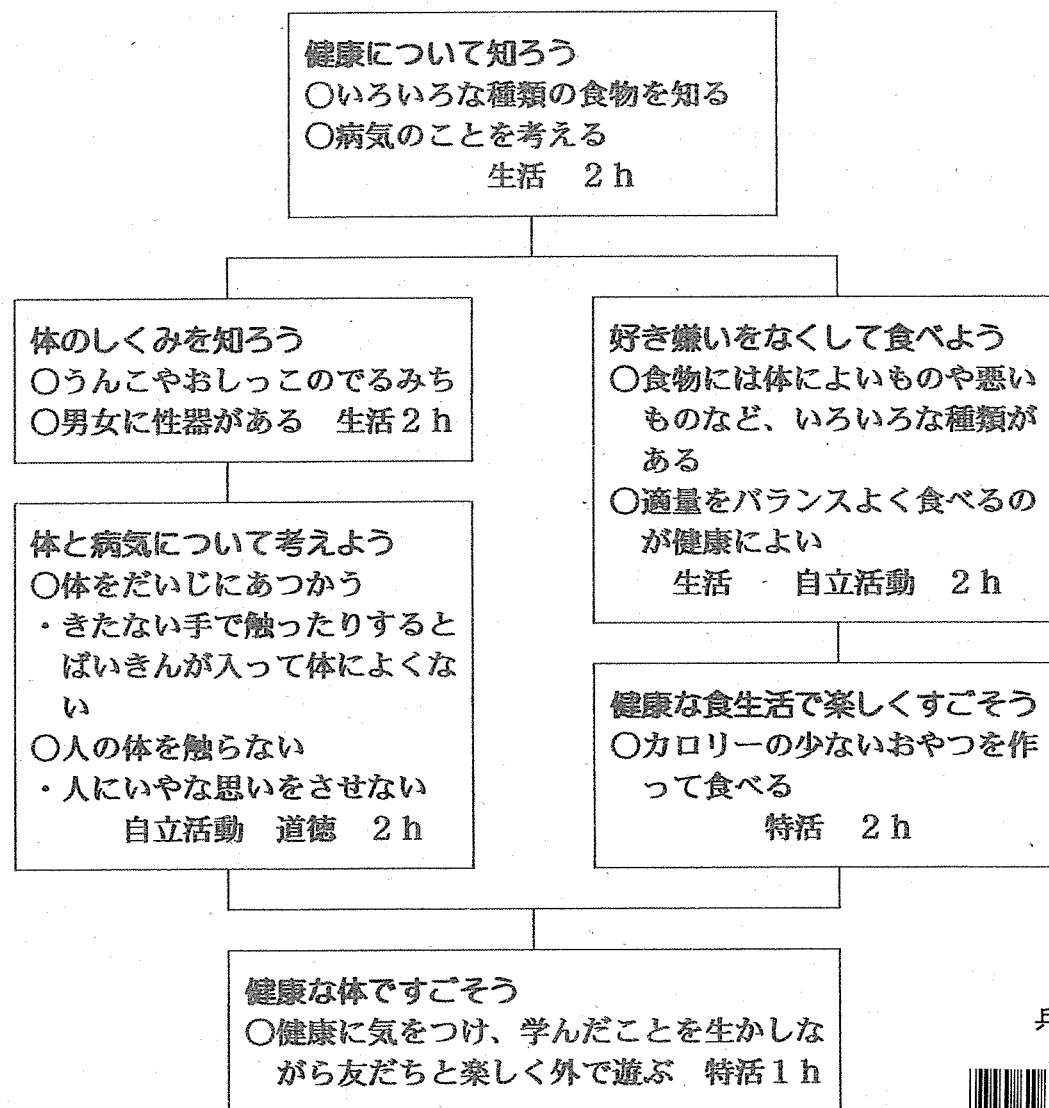
『自ら体験し、表現する子』

～単元学習を核とした「生きる力」を培う

学習活動の創造～

(3年次)





5. 単元展開のポイント

単元を組んだきっかけ

この学級の児童の中には、性器いじりを頻繁にする男子がいる。いわゆるマスターベーションであるが、思春期のそれとは多少違っている。しかし、ところ構わずズボンから性器を出したりする態度は、いくら3年生だとしても周りにとっては不愉快であり、障害児であっても許されるものではない。彼には、場所と時間をわきまえるように、またズボンの中に手を入れているのは許しても、出して人前に曝すのはダメだということを繰り返し指導してきた。ところが、彼よりもむしろ他の児童がそれをマネしたり、遊び半分で友だちに嫌がらせをするという行為にエスカレートしてきたことが問題だった。

また、この3年生の児童は肥満体質で、夏休みに7kgも太ってしまい、じゅうたんの上でごろごろ寝そべって動こうとしなくなってしまう、体を動かさなかったらすぐに性器の方へ手が行ってしまう。

そこでなんとか難しい課題（栄養指導と性教育）であったが健康というテーマで括り取り組んできた。

展開の工夫（研究授業）

食物にはだれでもそうであるが、クラスの児童はとっても興味があり、毎日給食献立表を読んだり、食物の絵本やカードを頻繁に見て楽しんでいる。しかし、絵や写真だけではあまり乗ってこないし、実感が湧かない。そこで、導入をどうしようかと一番に悩んだ。

ねらいは、好きなものばかり食べていると、太って体が重くなって動けなくなる。おやつなど甘くて油の多いものばかり食べないで、太らないものを食べる必要があるのをどう教えたらいいのか。考えたあげく、本物の空き箱に砂を入れて、重さを実感させるように工夫した。くだものも本物を持ってきて提示した。本物を見た時の児童の目の輝きはすばらしかった。

また、自作のお話を人形劇でやったのも興味を示し、効果が表れたようだ。

一方の性教育は、内蔵、性器と教え、人にとっての関わりは紙芝居、お話などの方法もあるが、その都度繰り返し指導していくのが一番よい方法と実感した。

児童の変容

少しずつ変化を見せてきている。性器いじりは止まないとしても、人に見せたらいけないということは分かってきているようであり、マネをしていた子も次第にその頻度は減ってきている。相手が不愉快な気持ちになることも、徐々にではあるが分かってきている。

反省と今後の課題

必要な課題であっても、2本柱ではやっぱり無理がありしんどかった。

一度の取り組みだけでは分かる内容の物ではなく、今後も繰り返し指導を続けていく必要性を感じている。

自作教材

あるところにたけし君とつよし君という名前の男の子がいました。

二人はとってもなかよしです。

今日も二人はたけし君のおうちで遊んでいました。3時のおやつの時間になったのでお母さんがおやつを持ってきてくれました。

おやつはりんごとみかんです。

とってもおなかがすいていたので、つよし君はみかんをひとつ取ってパクリと食べました。

たけし君もみかんをひとつ取って食べました。

つよし君はこんどはりんごを取って食べ、すぐ柿も取ってパクパク食べました。

たけし君もりんごと柿を食べましたが、りんごが大きかったの、たけし君はおなかがいっぱいになってしまいました。

つよし君もおなかが大きくふくれてパンパンです。

だって、こんなに大きなりんごなんですもの。

しかし、つよし君はまたみかんを食べました。

「だめだよ。あんまり食べるとおなかをこわすよ。」

たけし君のちゅういも聞かずにつよし君は残っていたりんごも柿もぜんぶ食べてしまいました。

「ああ、あ。しらないよ。」

その晩、つよし君はおなかが痛くなって救急車で病院に行き、大きな注射をされ、ワーワーなきました。

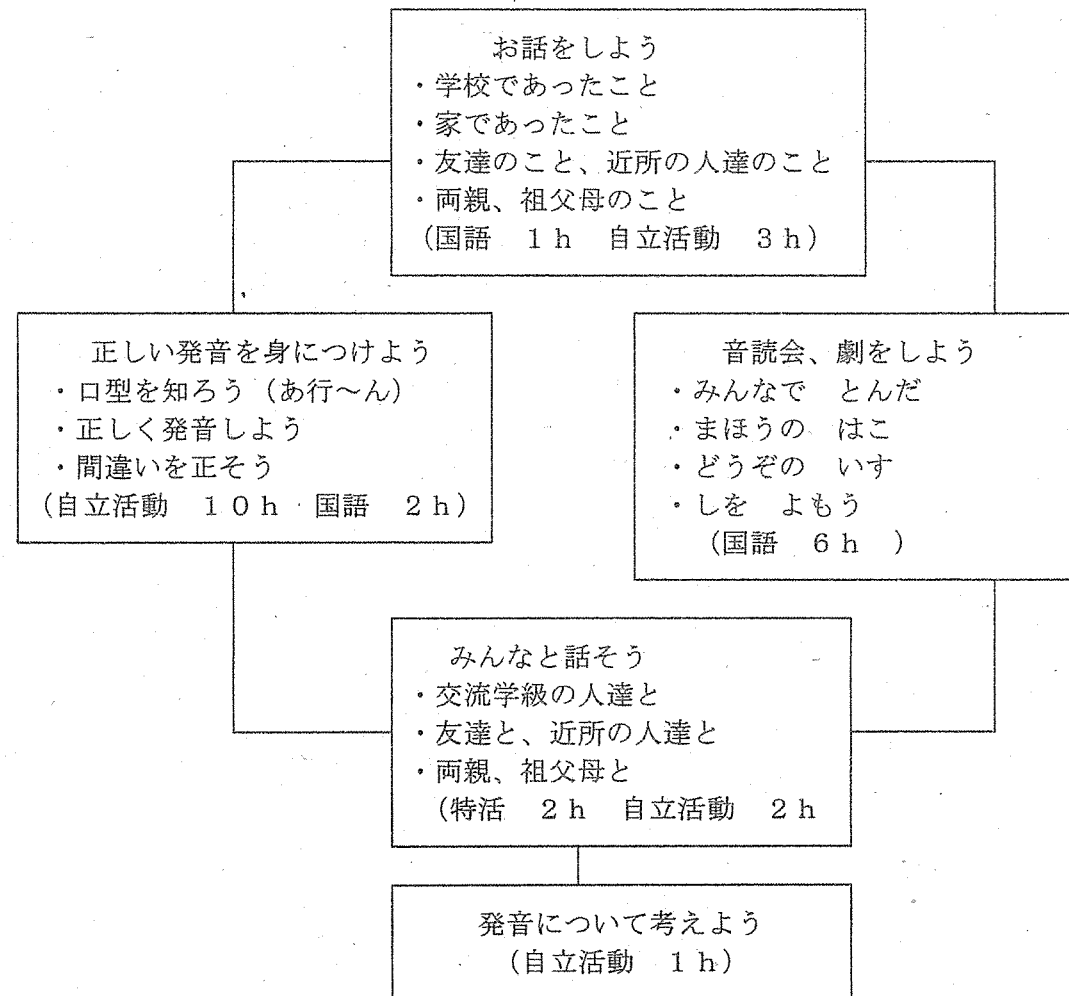
ハロー学級 単元学習指導案

1 単元名 みにつけよう ただしいはつおん

2 単元目標

- 発音の間違いや、そこからくる表記の間違いを知り、正していく。
- 発音に気をつけて会話をしたり、口形によりどんな言葉であるか予測することが出来る。
- 正しく発音されていない言葉を新たに知り、進んでなおしていこうとする。

3 単元構造図（全27時間）



4 評価基準評

評価観点	単元目標	評価場面	評価方法	子供の姿としての表れ	支援の方向 改善の視点
関心 ・意欲 ・態度	発音の間違いや、表記の間違いを知り、正していく。	ひらがな、カタカナの練習	観察 ノート プリント 発言 音読 会話	発音と表記が違っていることを感じ取る。 正しく発音しようとしている。	正しく発音、表記されていないことを具体的に知らせる。
技能 ・体験 ・表現	発音に気をつけて会話をしたり、口形によりどんな言葉であるか予測することができる。	会話様子 音読 ゲーム 言葉当て	観察 発言 音読 会話	口をしっかりと開け、正しい発音で話そうとする。 相手の口元をしっかりと見て話が聞ける。 相手の口形により言葉を予想しようとする。	わかりやすい母音から幾つかの中から選ばせる。 しっかりと相手の口元を見ながら話を聞くように意識させる。 興味を持たせながら、繰り返す。
学び方・生き方	正しく発音されていない言葉を新たに知り、進んで正していこうとする。	表現 劇、音読会 音読 会話	観察 ノート 日記 プリント 発言 音読 会話	新出の言葉、苦手な言葉を進んで言ってみようとする。 口形を見ながら、どのような舌、息づかいでその音が出るか、工夫しながら言うことができる。 自身の発音の不正確さに気づく。 どうすれば正しく発音できるか、今まで学習したことを土台にして考えていこうとする。	口形を作り、舌の形を工夫してみることによって正しい発音が出きるということに気づかせたい。また、手のひらに当たる息の具合によって正しい発音を色々な面から考え、それに近づけていこうとする気持ちを高めていく。

5 単元展開のポイント

(1) 単元作りについて

- ・入学する数ヶ月前より補聴器をつけて生活を始めたN児、発生発語訓練などまったく受けたことがないN児に発音の間違いを認識させるとともに興味を持って自立活動に立ち向かっていける基礎的な力をつけていくことを目標とした。

(2) 学習活動について

- ・大好きな「数え歌」を歌う。発音の間違いなどたくさんあるが、なおさない。
- ・口形の大切さを知るためにも常に鏡を使うようにしている。また、話し手の口元（顔）をしっかりと見ながらの発音練習も心がけている。全くの聾の方が話される時も手話をしながら口形をつくって言葉を発しようとされる。その時、手話が全くわからなくても、その口形から発せられる音によって何を言っておられるか聞き手に伝わってくる。このような経験から口形を大切に指導していくようにしている。（舌、息遣いも）
- ・自身の発音や口形について、ビデオではっきりと見、違いが分かるようにしている。
- ・似た言葉を集めて訓練することも大切である。

(3) 表現

- ・獲得できた発音を、交流学級の授業やふだんの学校生活、家庭生活の中に還していくことが本学級の大きな目標の一つである。

(4) 反省会より

- ・言語教育にかかわっている先生方にも見ていただき、発声・発語に関する考え、意見、指導方法等聞くことが出来た。

(5) 成果と課題 （この単元でやってきたことを国語の学習や自立活動の中にも取り入れて、繰り返しやってきたということも含めて）

- ・遣っている言葉で、間違って発音している言葉があることに気づきだした。
- ・舌の形をいろいろと工夫しながら音を作っていく姿勢ができてきた。
- ・口の形をしっかりと見ながら話を聞くことができるようになった。
- ・正しく発音しようとゆっくり口を大きく開け、意識して話すことが場合によってはできるようになってきた。
- ・口の前に手のひらを持ってきて、息の強さ、息のあたる場所等を考えたり、調べたりしながら発音の練習ができるようになった。
- ・気を付けながら話そうという様子が家庭でも見られるようになった、ということを保護者の方から聞いた。
- ・発音の間違いを感じ取れるようになった反面、以前の屈託のない生き生きした発言が少なくなってきたように思われる。
- ・意識していないと以前のような発音になってしまう。（できるだけゆっくり話をするように指導しているが）

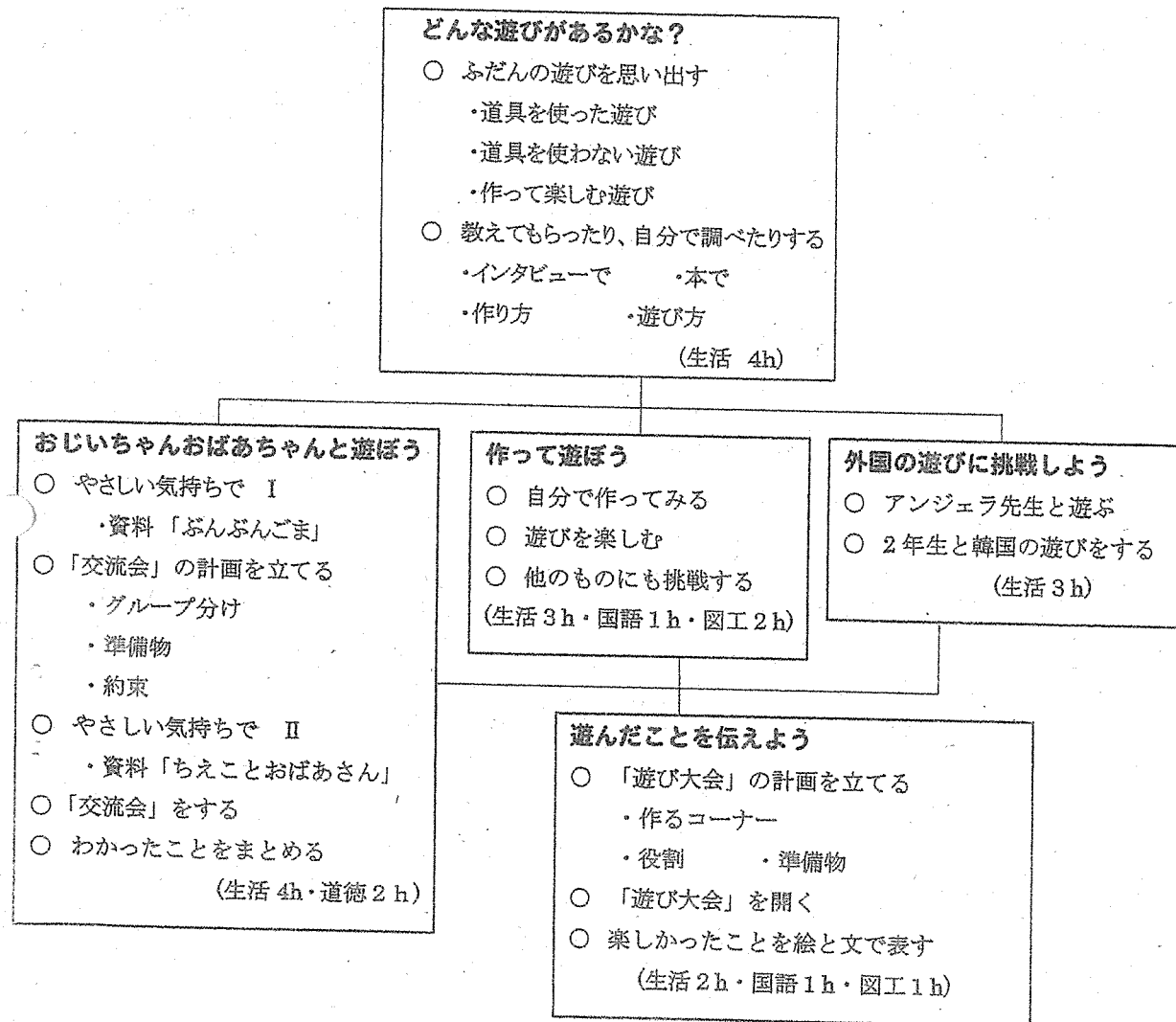
第1学年 単元学習（第2学期）

1 単元名 「あそびだいすき」
ーほくらは、あそびのてんさいだー

2 単元目標

- 自分たちの遊びをふり返り、いろいろな遊びの楽しさに気づいたり、知らない遊びについても、教えてもらったり、自分で調べたりするなど、意欲をもって取り組むことができる。
- 自分なりに工夫しておもちゃを作ったり、遊び方を考えたりして、楽しんで遊びに取り組み、さらに体験したことを絵や文で表現し、みんなに知らせることができる。
- 自分が知っている遊びを友だちに教えたり、また地域の高齢者の方といっしょにおもちゃを作ったり、仲良く遊んだりする活動を通して、積極的に人と関わっていく楽しさに気づく。

3 単元構造図（全 23時間）



4 評価基準

評価観点	単元目標	評価場面	評価方法	子どもの姿としての表れ	支援の方向、改善の視点
関心・意欲・態度	自分たちの遊びをふり返り、いろいろな遊びの楽しさに気づいたり、知らない遊びについても、教えてもらったり、自分で調べたりするなど、意欲をもって取り組むことができる。	○どんな遊びがあるかな ○おじいちゃんおばあちゃんと遊ぼう ○作って遊ぼう ○外国の遊びに挑戦しよう	○行動観察 ・つぶやき ・発言 ・遊びの様子 ○ワークシート ・文章 ・ウェビング ○自己評価カード	○共通体験などから課題をもつ ○学習の計画を立てる ○遊びについて進んで調べようとする ○いろいろな遊びに、積極的に取り組もうとする	○具体的場面の想起 ○ウェビング ○具体的活動の提供と指示 ○見通しの確認 ○カンファレンス
技能・体験・表現	自分なりに工夫しておもちゃを作ったり、遊び方を考えたりして、楽しんで遊びに取り組み、さらに体験したことを絵や文で表現し、みんなに知らせることができる。	○おじいちゃんおばあちゃんと遊ぼう ○作って遊ぼう ○外国の遊びに挑戦しよう ○遊んだことを伝えよう	○行動観察 ・遊びの様子 ・伝達の仕方や様子 ○プレゼンテーション ○作品 ○自己評価	○課題解決に役立つ情報を集める ○集めた情報から、興味のある遊びに積極的に取り組む ○体験したことを楽しく作品で表現する	○追求の方向性の確認 ○情報を元にした具体物の製作や体験についての方法の提示 ○カンファレンス
生き方・学び方・環境や自分への気づき	自分が知っている遊びを友だちに教えたり、また地域の高齢者の方といっしょにおもちゃを作ったり、仲良く遊んだりする活動を通して、積極的に人と関わっていく楽しさに気づく。	○おじいちゃんおばあちゃんと遊ぼう ○作って遊ぼう ○外国の遊びに挑戦しよう ○遊んだことを伝えよう	○行動観察 ・友だちや高齢者との関わり ・身体表現 ○ワークシート ○作品 ○自己評価カード	○自分の教えた遊びをわかりやすく親切説明する ○教えてもらいたい遊びに積極的に取り組み、楽しむ ○人と関わり合うことの楽しさに気づく	○何を示すと友だちに伝わりやすいかの提示 ○活動する中で言葉がけの大切さを示す ○いいところ見つけさせていく

5 単元展開のポイント

(1) 教材開発、教材化への工夫

①課題

- ・ 遊びという身近なものを通して、人との関わりの楽しさに気づき、積極的にいろいろな人と関わっていかうとする態度を養う。
- ・ 1年生なりに、課題にそって調べ、学習を進めることができる。

②同学年以外の人との関わり

- ・ 高齢者（地域のおじいちゃん、おばあちゃん）
- ・ AET（アンジェラ先生）
- ・ 異学年（2年生）

※ 遊びという枠の中で、いろいろな人とのふれ合いの活動を、自然の流れで取り入れられたことが、単元作りにプラスになった。

③遊びへの意識付け

- ・ 普段の遊びを思い出すことから、生活の中から、課題見つけができた。
- ・ 友だちの見つけてきたものと比べ合い、遊びという生活に密着したものも、分類わけができることに気づき、学習素材として有効であった。

(2) 学習活動の工夫

①調べ学習

- ・ 1年生にとって、調べることは、まずその意味を教えることから入ることが今さらながらに、認識させられたが、少しヒントを与えるだけで、喜んで進めることができた。
- ・ 本は、図書室や家にあるもの、また公の図書館から、借りてきたものなどを利用したが、自分でお目当てのものを探し出すことができる子は少なかった。家の人の協力や教師のアドバイスが大きく関わってくる。また、本の場合、それらしきものを探してきても、漢字の習得が未熟なため、大切なことをピックアップすることが難しい。さらなる家の人の協力や教師の示唆が必要になってくる。ただ、その場合も、自分で調べたという自信をしっかりとらせることは、忘れてはならない。
- ・ インタビューは、喜んで取り組むことができた。特に家の人に尋ねてくることで、学校のできごとを知らせるきっかけにもなり、家族のコミュニケーションを図る上でも、思わぬ相乗効果をもたらした。インタビューをする相手は、主に家族に限定され、近所の人や異学年の人（例えば、登校班のおにいちゃんやおねえちゃん）という風には、広がっていかなかった。
- ・ ワークシートを活用することにより、自分が何について学習しているのか、調べたいのが、はっきりと見え、またまとめ方を学習するいいチャンスにもなった。自分の課題が、はっきり見える点もわかりやすかった。

②遊ぶおもちゃの製作

- ・ 子どもにとって、何かを作るという行為そのものが楽しみであり、それが簡単にでき、しかもそれを使って遊べるとなれば、どの子も夢中で取り組むことができた。
- ・ なにを作るか迷っていた子も、家の人や教師のアドバイスで、自分にできそうなものを見つけることができた。
- ・ 作ったもので、友だちが遊んでいる姿を見て、自然に友だちの作ったものに興味がわき、作り方や遊び方を聞くことができ、お互いに教えあうこと姿が見られた。
- ・ 今まで作ったことのなかったものも、調べたことを生かして作ったり、失敗しても作り直したりと目的に向かって努力できている様子が見られた。

③交流会

- ・ 高齢者の方との交流会は、老人会の方の協力を得なければいけないので、早めに実施日や交渉の日を決めておくことが大切である。老人会の方も多忙なことが多いので、希望の日時がある場合には、特に早めに連絡を取っておくことが不可欠である。また、打ち合わせのときに、できるだけ詳しく、こちらの意図を伝えておく方が、より活動がスムーズにいく。
- ・ 高齢者の方も、喜んで活動に参加してくださっているので、それに対して感謝の気持ちを忘れないように心がけたい。子どものちょっとした一言にも、楽しそうに答えてくださっている様子が見られた。
- ・ AETの先生との交流は、1学期もあったので、自然な形であることができた。子ども自身が、AETと話すことに、何の抵抗もなく自然と振舞えているのがよかった。じゃんけんを教えてもらって、しばらくそれが教室の中で行われていたことも、子どもたちが、教えてもらったことに興味を持った証拠といえるだろう。

(3) 展開の工夫

①グループ活動

- ・ グループの構成を自分の興味をもった遊びで分けたところ、自然と教え合いができていて、活動が活性化されていたと思う。1年生では、人にものを尋ねるのも苦手な子もいるので、聞き方の指導も、臨機応変に行っていくとよい。また、教えるということが、自分の自信につながり、聞いてくれたということが、喜びを生んでいった。
- ・ 活動の展開によって、グループ構成を変えていったのも、より多くの人と協力し合うきっかけになってよかった。

②発表会「遊び大会」

- ・ 遊び大会で2年生にきてもらったことが、とても大きな喜びになった。

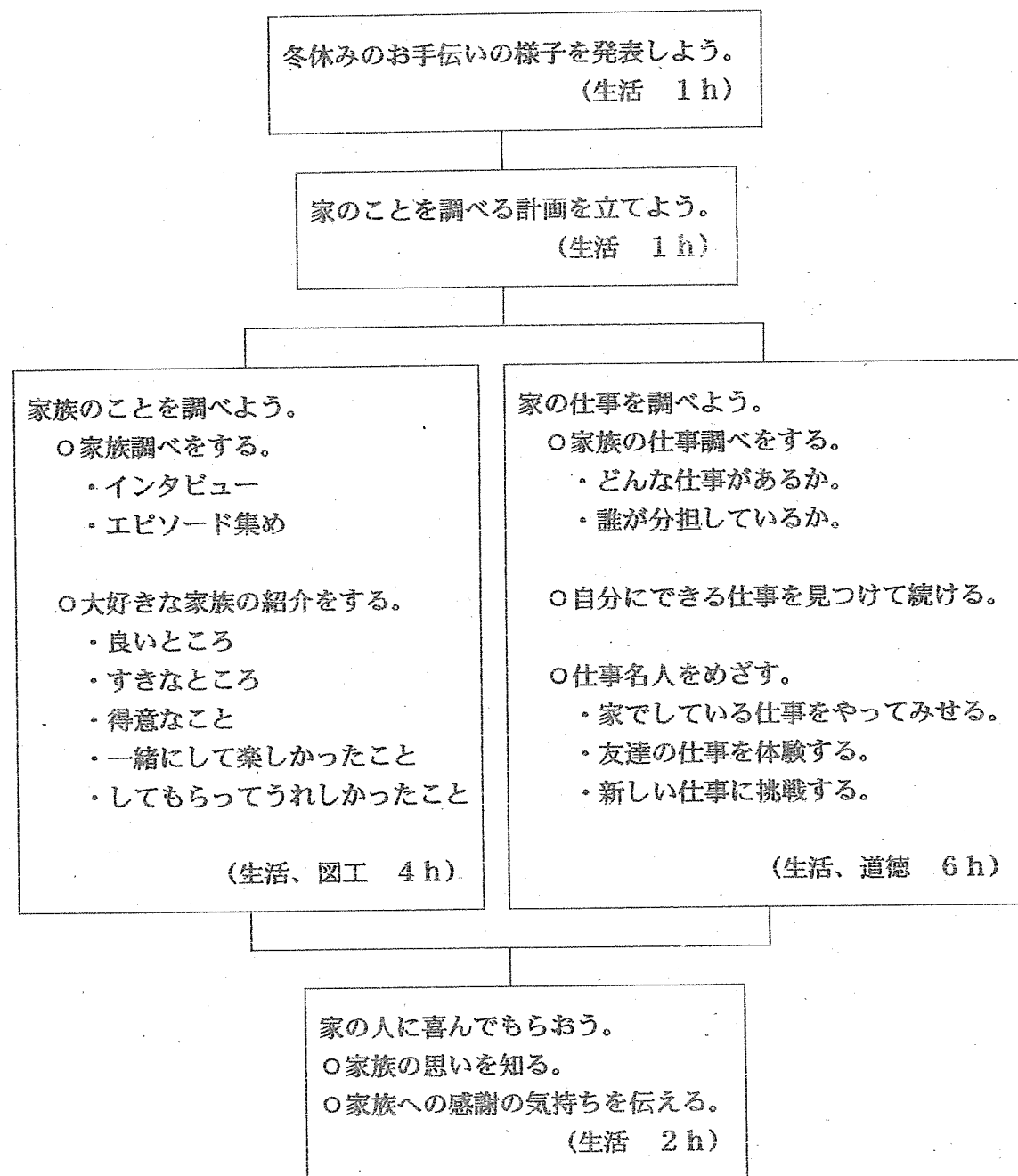
第1学年 単元学習（第3学期）

1 単元名 しごとだいすき

2 単元目標

- 家庭生活を支え合っている家族の仕事や役割に興味や関心を持ち、進んで調べたり自分にできることを行ったりしようとする。
- 家族や家の仕事についてわかったことを自分なりにまとめたり表現したりできる。
- 家庭生活が家族によって支えられていることや、家族ひとりひとりの良さに気づくことができる。

3 単元構造図（全 14時間）



4 評価基準

評価観点	単元目標	評価場面	評価方法	子どもの姿としての表れ	支援の方向・改善の視点
関心 意欲 態度	家庭生活を支え合っている家族の仕事や役割に興味や関心を持ち、進んで調べたり自分にできることを行ったりしようとする。	手伝い発表 家のこと調べの計画 家族調べ 家の仕事調べ 仕事の実践 仕事名人をめざして	発表の様子 発言 ワークシート 行動観察 自己評価・相互評価カード	家庭での自分の生活に関心をもつ 調べたいことを見つける 家のことについて進んで調べようとする 自分にできることを積極的行ったり、新しい仕事にも挑戦したりしようとする	家庭状況への配慮 家庭への協力依頼 継続できるように励まし、友達のがんばりを全体に広める
技能 体験 表現	家族や家の仕事についてわかったことを自分なりにまとめたり表現したりできる。	家族調べ 家の仕事調べ 仕事の実践 仕事名人をめざして 家族への感謝の気持ちを伝える	ワークシート 家族紹介文 行動観察 ・仕事ぶり ・こつの説明の仕方 自己評価・相互評価カード 気持ちを伝える作品	家族や家の仕事についての情報を集める 集めた情報を文にまとめて紹介する 家の仕事を体験する 友達が紹介してくれた仕事も体験する 体験したことを文にまとめて発表する 家族への感謝の気持ちをそれぞれの方法で表す	家庭への協力依頼 家族と一緒に場の設定（参観日） 体験しやすい場の設定 十分に体験できる時間の確保 子どもの思いや願いに共感し価値づける
生活 習慣 態度 能力 知識 技能 表現 態度	家庭生活が家族によって支えられていることや、家族ひとりひとりの良さに気づくことができる。	家の仕事調べ 家族調べ 仕事の実践 仕事名人をめざして 家族の思い 家族への感謝の気持ちを伝える	ワークシート 発言 つぶやき 家族紹介文 仕事がんばりカード 行動観察 表情 感想 発言 つぶやき 作品	家の仕事の量、それを分担していること その大変さに気づく 家族の良さに気づく 自分の果たす役割がわかる 自分の仕事のこつを説明できる 家族の手紙によって自分の良さや貢献度に気づく 家族が喜ぶことを見つけたたり、家族が楽しくなることを見つけたりする	気づきを引き出せるように、調べてきたことの提示方法を工夫する 活動への称賛の言葉がけで自信を持たせる 家庭への依頼

5 単元展開のポイント

○家庭との連携

この単元では、多くの活動が家族との関わりを通して行われるため、保護者に活動の趣旨を十分に理解してもらうことが必要である。学年全体として、各家庭に理解と協力を求めるお便りを出したり、学級だよりで子どもの活動の様子を知らせたりした。そうすることで、子どもが学校で認められががんばっていることが理解してもらえる。また、家庭での子どもの仕事ぶりについて感じたことを「家族からの手紙」として書いてもらうようお願いした。家族から手紙がもらえたということだけで、子どもたちは大喜びだった。その上、家族からの励ましや称賛をもらって、自分のしてきたことに自信と満足感をもつことができた。

子どもの感想

いつもおこられてばかりなのに、ほめられてうれしかった。わたしとおとうとがたからものだってわかった。

じぶんが、そんなにがんばったということがわかった。

これから、いえのおしごとがんばるよ。

おてがみありがとう。おかえしにばくもてがみをかくよ。

○夏休みや冬休みのお手伝い、日々の係活動など、仕事をする楽しさを体験していることが、この単元に取り組ませる上での良い素地となった。

○家族の紹介では、子どもに紹介したい人を決めさせ、参観日を利用して、家族と一緒に発表会の場を設定した。保護者から、堂々と発表できていた、紹介文のまとめ方が上手な子どもがいてびっくりしたなど、子どもの成長を喜ぶ感想が寄せられた。

○仕事名人をめざそうでは、発表にむけて、家の人に上手にするための秘密やコツを聞いたり、祖父母をも巻き込んで料理の味見をしてもらったりと、家族との関わりが一層深まった。

仕事発表場面では、教師は見守る姿勢に徹した。安全面や衛生面の問題がある時以外は手出し、口出しをしないことがかえって子どもの力を引き出すことになる実感した。どの子も嬉々として活動に取り組んだ。

見る側は、友達の手際よさに感心したり、アイロンを当てるとこんなにきれいになるのかと驚いたり、実際にさせてもらうと、うまくいかないことに気づいたりするなどたくさんの発見があった。

本単元は、生きる力をつける一つのきっかけとなるとともに、自立への基礎を養うために有効な単元であった。

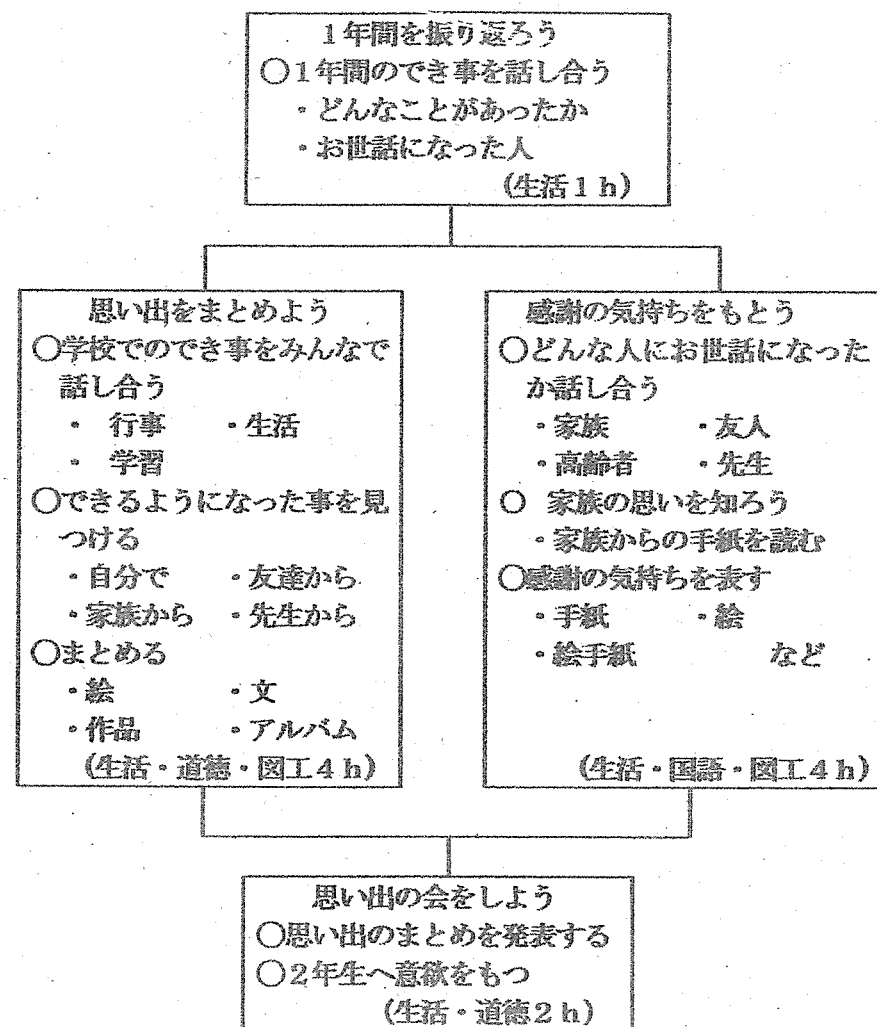
第1学年 生活単元学習 (3学期)

1. 単元名 おもいでがいっぱいできたよ

2. 単元目標

- 入学してから今までの活動やでき事・行事などについて、先生や友だち・家族などから聞いたり集めたりしたことを、進んで整理しようとするとともに、2年生への意欲をもつことができる。
- 1年間の思い出などを工夫してまとめたり、周りの人への感謝の気持ちをわかりやすく表現したりすることができる。
- 1年間の活動やでき事・行事などを振り返り、たくさんの人たちとの関わりによって思い出ができたことや、自分も友達も成長したことに気づき、成長の喜びを味わうことができる。

3. 単元構成図 (全 11時間)



4. 評価基準

評価観点	単元目標	評価場面	評価方法	子どもの姿としての表れ	支援の方向、改善の視点
関心・意欲・態度	入学してから今までの活動やでき事・行事などについて、先生や友達・家族などから聞いたり集めたりしたことを、進んで整理しようとする。共に、2年生への意欲をもつことができる。	1年間を振り返ろう 思い出をまとめよう 感謝の気持ちをもとう 思い出の会をしよう	行動観察 発言(つぶやき) ワークシート ウエビング 自己評価	共通体験などから課題をもつ 学習の計画を立てる 1年間のでき事・行事を進んで探したり、まとめようとする 発表会において、積極的に取り組もうとする	具体的場面の想起 具体的活動の提供と支持 カンファレンス
技能・体験・表現	1年間の思い出などを工夫してまとめたり、周りの人への感謝の気持ちをわかりやすく表現したりすることができる。	思い出をまとめよう 感謝の気持ちをもとう 思い出の会をしよう	行動観察 発言 作品 文章 自己評価 他者評価	絵や文、作品、アルバムなどにまとめようとする 感謝の気持ちを絵や文で表現しようとする まとめたものをわかりやすく発表しようとする	追求の方向性の確認 まとめるものを元にした具体物の制作や表現についての方向の提示 カンファレンス
生き方・学び方	1年間の活動やでき事・行事などを振り返り、たくさんの人たちとの関わりによって思い出ができたことや、自分も友達も成長したことに気づき、成長の喜びを味わうことができる。	思い出をまとめよう 感謝の気持ちをもとう 思い出の会をしよう	行動観察 発言 作品 文章 自己評価 他者評価	自分や友だちの成長に気づき、互いの成長を喜び合おうとする 自分が成長していることを実感し、その成長を支え、喜んでいる多くの人がいることに気づこうとする	活動を振り返り、自分たちの成長に気づかせる カンファレンス

5. 単元展開のポイント

活動名	活動のポイント
1年間を振り返ろう	<ul style="list-style-type: none"> ○1年間の活動やでき事・行事などを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・低学年の場合、話を聞くだけではなかなか思い出せない部分があるため、絵や写真など視覚を使ったほうが思い出しやすい。 ・時間の流れを理解させるためには、四季や月の順に並べ、いつ、どんなことがあったかを話し合うようにする。 ・掲示物を使い、よりわかりやすくする。
思い出をまとめよう	<ul style="list-style-type: none"> ○学校でのでき事をみんなで話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・導入で振り返ったことを一つずつ取り上げ、詳しく話し合う。 ○できるようになった事を見つける。 <ul style="list-style-type: none"> ・相互評価、自己評価を繰り返しながら、よりよい追求活動を進めるようにする。 ○思い出をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・入学当時からの作品や作文・写真など、保管しておいたものを綴じさせたり、まとめた感想を書かせたりすることで、どれだけ成長したかに気づかせる。
感謝の気持ちをもとう	<ul style="list-style-type: none"> ○どんな人にお世話になったか話しあう。 <ul style="list-style-type: none"> ・支えてくれた人々の願いをより広く、深くわからせていけるような言葉かけをする。 ○家族の思いを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に前もって子どもたちへの励ましの手紙を書いていただくよう依頼し、子どもたちに届け、家族の思いを知らせる。 ○感謝の気持ちを表す。 <ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの表現方法を紹介し、感謝の気持ち、これからの思いをまとめることができるように声かけをする。
思い出の会をしよう	<ul style="list-style-type: none"> ○思い出のまとめを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・発表会を企画・設定する時、可能な限り子どもたちに任せる。 ○2年生への意欲をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・発表会や家族からの手紙より、自分の成長を感じ取り、頑張っていこうとする意欲づけをする。

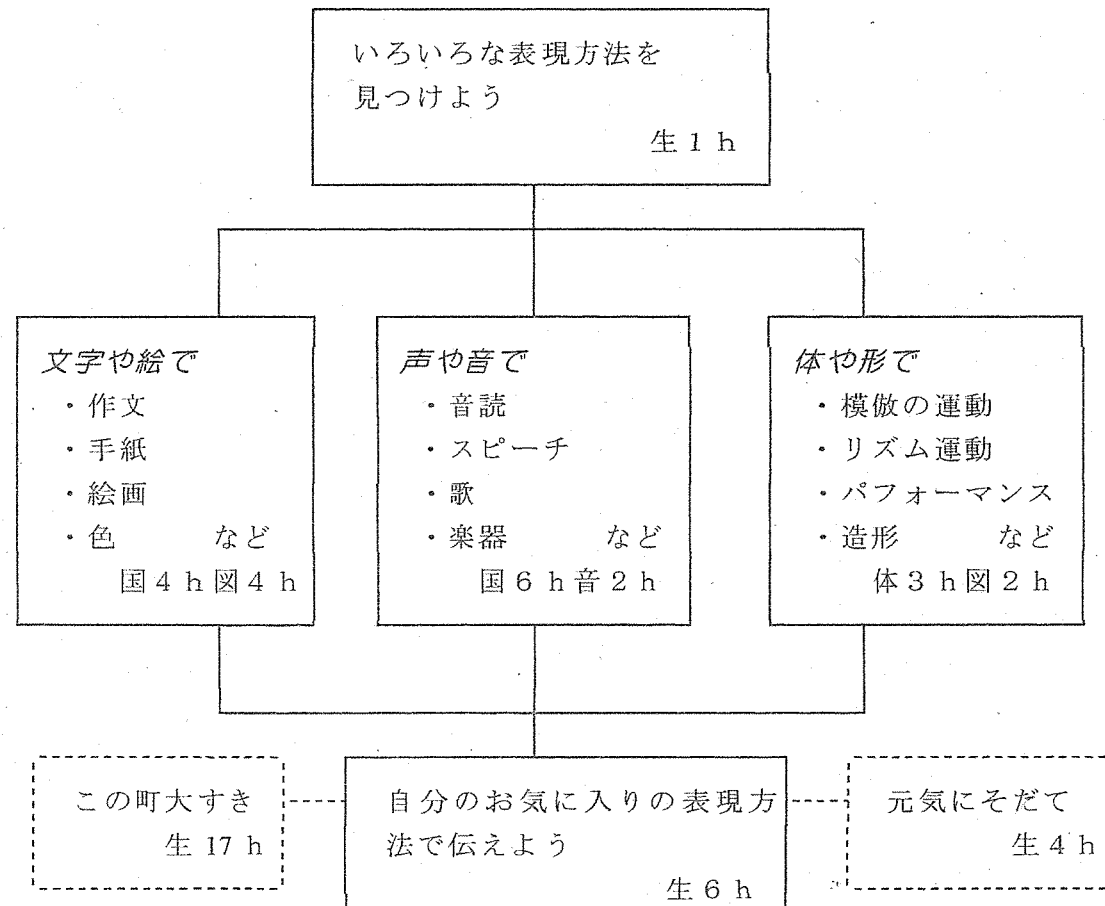
第2学年単元学習（1学期）

1 単元名 「伝えよう、マイハート」

2 単元目標

- いろいろな手法を用いて、進んで自分の思いを自分らしく表現しようとする。
- さまざまな表現方法を知り、自分なりに工夫してよりよく表現したり、友達と力を合わせて表現したりすることができる。
- 自他の違いを認めながら互いによりよい表現をしていこうと高めあうことができる。

3 単元構造（全28時間）



4. 評価基準 単元学習『伝えよう マイハート』

評価観点	単元目標	評価場面	評価方法	子どもの姿としての表れ	支援の方向、改善の視点
関心・意欲・態度	いろいろな手法を用いて、進んで自分の思いを自分らしく表現しようとする。	文字や絵で 声や音で 体や形で ・・・伝えよう	具体的表現 観察 自己評価	いろいろな手法を用いた表現活動に積極的に取り組む。 自分なりの表現をしようとする。 表現に自分の思いを付加できる。	具体的提示をする。 『みんなちがってみんないい』の思いを定着させる。 カンファレンス
技術・技能・表現	さまざまな表現方法を知り、自分なりに工夫したり、友達と力を合わせて表現したりすることができる。	・・・見つけよう 文字や絵で 声や音で 体や形で ・・・伝えよう	具体的表現 観察 発言 つぶやき 自己評価	さまざまな表現方法に興味をもつて取り組もうとする。 よりよい表現を探ろうとする。 友達と積極的にコミュニケーションをとりながら表現しようとする。	具体的提示をする。 友だちの表現をまねることから自分らしさを見つけていくようアドバイスする。 カンファレンス
自分への気づき	自他の違いを認めながらよりよい表現をしていこうと高めあうことができる。	文字や絵で 声や音で 体や形で ・・・伝えよう	具体的表現 発言 つぶやき 観察 自己評価 ワークシート	友だちの表現のよさを進んで見つけようとする。 友だちの表現のよいところを取り入れ自分の表現を高めようとする。	『みんなちがってみんないい』の視点でそれぞれのよさを認めて自信をもって表現できるようにする。 積極的に友だちのよいところを見つけ、そのわけを考えていくように仕向ける。 カンファレンス

5. 単元展開のポイント

単元の展開について

第1次・	単元の導入として、「マイハート」の言葉の意味を共有化し、いろいろな表現方法を出し合った。	
第2次	文字や絵で 作文や手紙、絵画、色など	・具体的にいろいろな表現方法を体験 することを通して、さまざまな表現 方法用いて自分らしく表現すること ができることに気づいた。 ・抽象的な表現も取り入れることによ り、それぞれの表現の仕方や感じ方 の違いを体感することができた。
第3次・	声や音で 音読やスピーチ、歌、楽器など	
第4次	体や形で 模倣の運動やリズム運動、 パフォーマンス、造形など	
第5次・	自分なりに工夫して「マイハート」を伝え合った。	

単元を振り返って

- 単元構造の中には、道徳の時間の設定がなかったが、単元展開を通して、絶えず「みんな違ってみんないい」ということを繰り返し子どもたちに意識づけるようにしてきたことを考えると、仲間作りにつながる内容項目の道徳の時間の設定をしておけばよかったと思われる。
- 「マイハート」の言葉の意味を共有化したことにより、年間を通じて表現活動の合言葉としてつかうことができたのはよかったと思う。
- 第5次で、一人ひとりで発表したことにより、発表への自信をもてたことと同時に友だちの発表を見たり聞いたりすることで、多様な発表方法やよりわかりやすい発表の仕方に気づくことができた。
- 一年間を通して、いろいろな学習場面において表現活動をするときに、自分で表現方法を考え、自分なりの表現活動をすることができた。
- 振り返ってみると、この単元が、一方的に伝える楽しさだけでなく、相手を意識した伝え合う楽しさを学ぶことができるようになる基盤となったように思う。

参考文献

- ・教育技術 MOOK「最新 楽しい表現運動・ダンス」村田芳子著 小学館
- ・教育技術 MOOK「体ほぐしの運動」杉山重利他 小学館

第2学年 生活単元学習 (2学期)

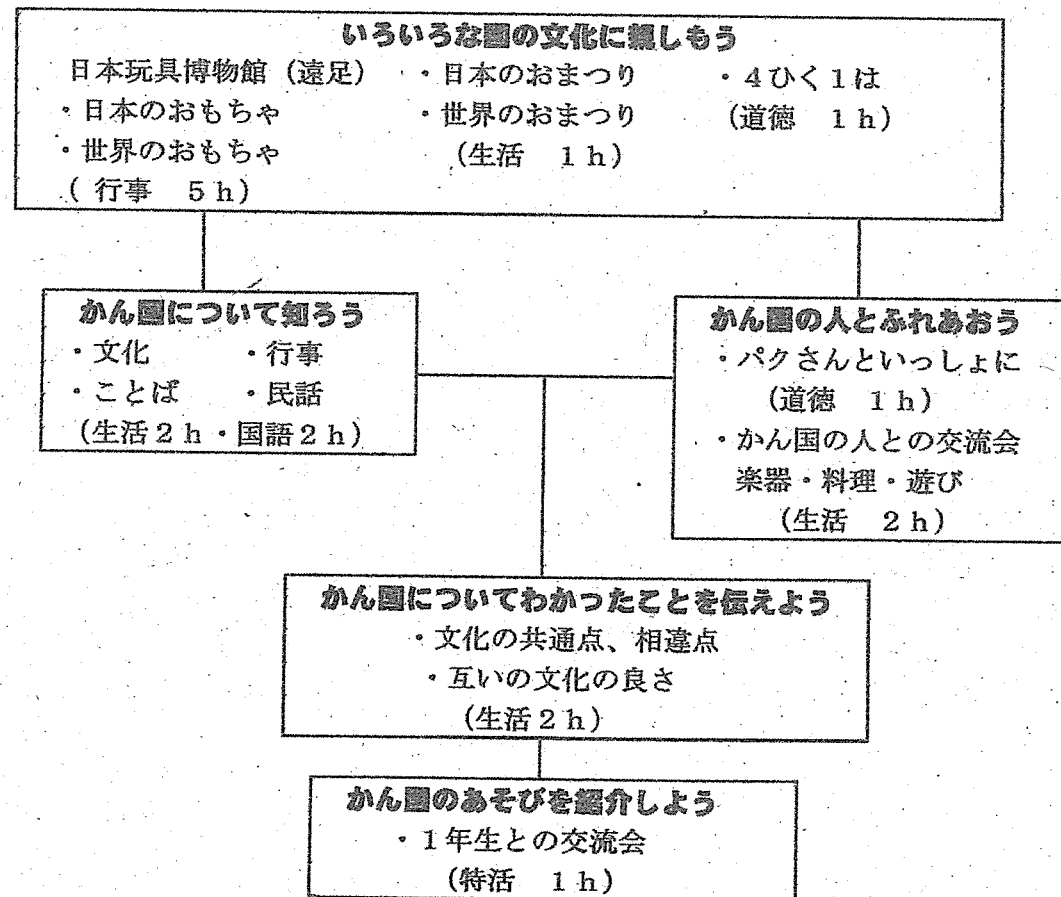
評価基準 単元名「つなげよう せかいはなかよし」

1 単元名 「つなげよう せかいはなかよし」

2 単元目標

- 世界には、いろいろな国があることを知り、異文化に興味と関心をもち、積極的に関わろうとする。
- 外国の人と直接ふれあうことにより、言語や習慣が違っても心が通じることを感じ、すすんでコミュニケーションしようとする態度を育てる。
- 異国の文化や習慣、言語、遊びなどを知るだけでなく、違いや良さに気づき、認め合う中で日本の文化を大切にしようとする心を培う。

3 単元構造図 (全 17時間)



評価観点	単元目標	評価場面	評価方法	子どもの姿としての表れ	支援の方向、改善の視点
関心・意欲・態度	世界には、いろいろな国があることを知り、異文化に興味と関心をもち、積極的に関わろうとする。	課題設定 課題追求 いろいろな国の文化に親しもう かん国について知ろう	観察 ワークシート 発言 つぶやき	異文化に興味関心を持ち、積極的に調べようとする。	調べ学習のやり方を指導し、資料を提供する。 カンファレンス
技能・体験・表現	外国の人と直接ふれあうことにより、言語や習慣が違っても心が通じることを感じ、すすんでコミュニケーションしようとする態度を育てる。	課題追求 表現・伝達 かん国の人とふれあおう	観察 発言 文章 自己評価	外国の人と積極的にふれあおうとする。 言語や習慣が違っても心が通じることがわかる。 すすんでコミュニケーションしようとする。	ことばによる交流だけでなく、身振りや雰囲気によってコミュニケーションできることをアドバイスする。 カンファレンス
学び方・生き方	異国の文化や習慣、言語、遊びなどを知るだけでなく、違いや良さに気づき、認め合う中で日本の文化を大切にしようとする心を培う。	表現・伝達 振り返り 実践化 かん国についてわかったことを伝えよう かん国の遊びを紹介しよう	文章 発言 観察 自己評価	文化の違いや良さに気づき、認め合う。 日本の文化を大切にしようとする。 わかったことを文、図、絵をつかって、相手にわかりやすくまとめる。 自分の思いをもとに話し合う。	文化の違いや良さに着目させる。 かん国のあそびの文化を積極的に伝えるように促す。 カンファレンス

単元展開のポイント

1. 活動のポイント

活 動 名	活 動 の ポ イ ン ト
いろいろな文化に親しもう	<ul style="list-style-type: none"> ・日本玩具博物館に行き、日本のおもちゃ、世界のおもちゃを見学し、文化の相違点や共通点に気づかせる。(遠足) ・生活科で日本のまつり、世界のまつりを学習する。 ・道徳「4ひく1は」の学習で国や環境が違っても、真剣に学ぶこども達の姿に気づかせる。
かん国について知ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・文化・行事・ことば・民話などについて、班ごとに調べ学習に取り組み、発表会をする。 ・ハングル文字で名前を書く。 ・あいさつ言葉の練習をする。 ・言葉カードで主な言葉を遊びながら覚える。 ・かえるの合唱を韓国語で歌う。 ・民話を聞く。 ・道徳「パクさんといっしょに」の学習をする。 ・チョゴリを試着する。
かん国の人とふれあおう	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国総合教育院の先生を招いて、交流会を開く。 ・料理(チヂミ)・楽器(チャンゴ)・遊び(ユンノリ・チェギチャギ・ペンイ)の3つのコーナーをまわって交流を深める。
かん国についてわかったことを伝えよう	<ul style="list-style-type: none"> ・交流会や調べ学習を通してかん国についてわかったことを互いに伝え合うことにより、文化の共通点、相違点を見つける。 ・互いの文化の良さを尊重することが大切であることに気づかせる。
かん国の遊びを紹介しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・教えてもらったかん国の遊びを1年生と交流会を開いて遊び紹介をする。 (ユンノリ・チェギチャギ・ペンイ)

2. 本単元に関する情報

神戸韓国総合教育院 神戸市中央区下山手通7丁目15-3

電話 (078) 362-1585

FAX (078) 362-1587

チャンゴの借入先 松陽高校 (伊藤先生にお願いして5, 6台借りる)

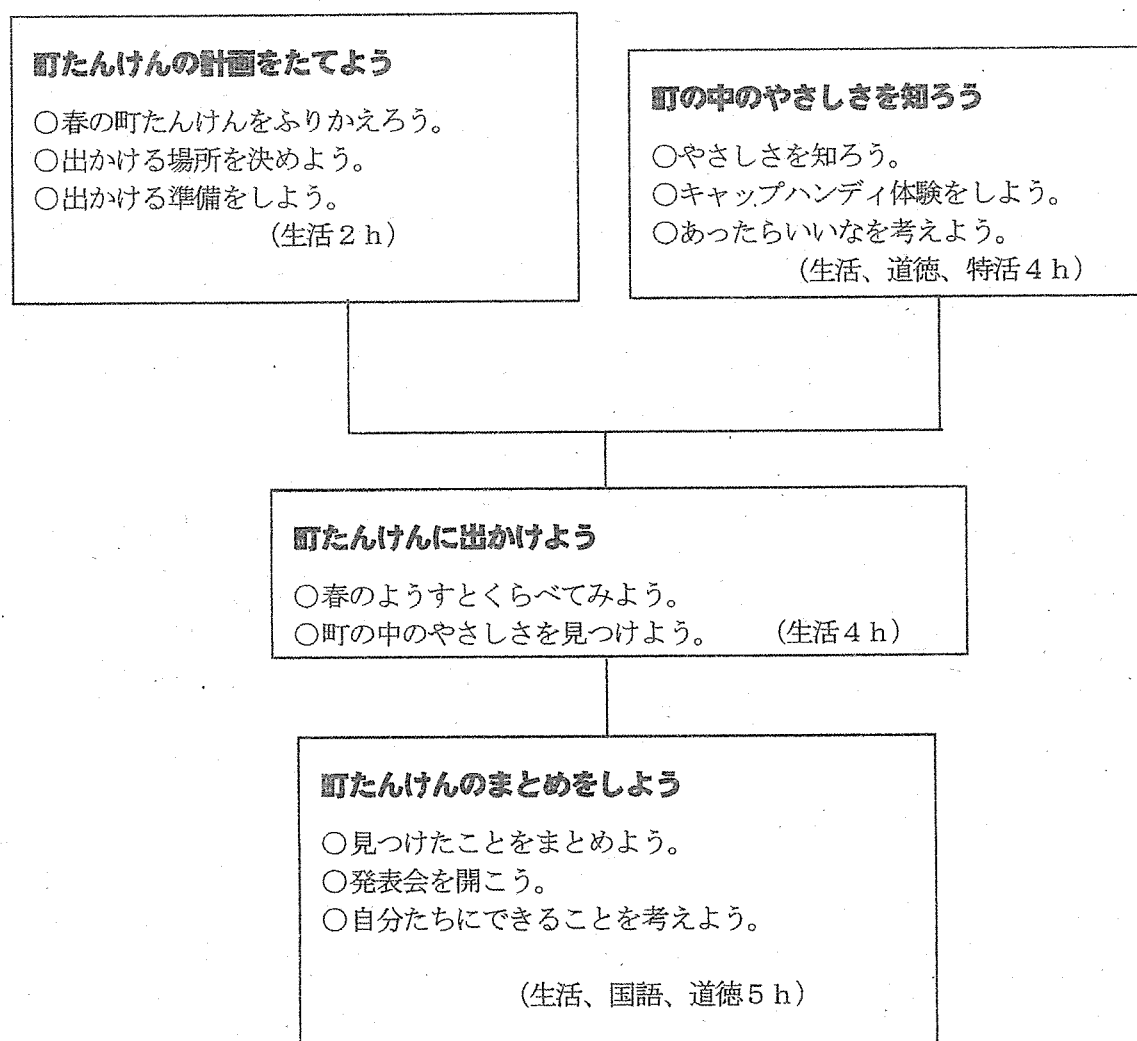
第2学年 単元学習指導案(第2学期)

1. 単元名 「町たんけんに出かけよう」

2. 単元目標

- 季節の変化や人にやさしい施設に関心をもち、すすんで町たんけんをしようとする。
- 秋の町のようにやさしい施設について、調べたり体験したことをまとめ、わかりやすく表現することができる。
- 町たんけんを通して、町のようにやさしい施設や障害のある人々についてのやさしさに気づき、自分たちにできることを考える。

3. 単元構造図(全15時間)



4. 評価基準 単元名「町たんけんに出かけよう」

評価観点	単元目標	評価場面	評価方法	子どもの姿としての表れ	支援の方向、改善の視点
関心・意欲・態度	季節の変化や人にやさしい施設に関心をもち、すすんで町たんけんしようとする。	町たんけんの計画をたてよう 町の中のやさしさを知ろう	観察 ワークシート つぶやき 発言	秋の町のようにやさしさに関心をもち、キャップハンディ体験から、障害のある人についてのあったらいいものについて積極的に考える。	具体的活動の提示 カンファレンス
技能・体験・表現	秋の町のようにやさしい施設について、調べたり体験したことをまとめ、わかりやすく表現することができる。	町たんけんに出かけよう 町の中のやさしさを知ろう 町たんけんのまとめをしよう	ワークシート 観察 発表	秋のようにやさしいものを見つけ、観察する。観察したり聞いたこと、わかったことを文や絵で表し発表する。	具体的活動の提示 秋のようすややさしさを見つけられるようアドバイスをする。 カンファレンス
環境や自分への気づき	町たんけんを通して、町のようにやさしい施設や障害のある人々についてのやさしさに気づき、自分たちにできることを考える。	町たんけんに出かけよう 町の中のやさしさを知ろう 町たんけんのまとめをしよう	ワークシート 発言 つぶやき 観察	町のようにやさしい施設や障害のある人々についてのやさしさに気づき、自分たちにできることを考える。	体験を振りかえり、自分たちにできることを気づかせる。 点字や手話にもふれさせる。 カンファレンス

5. 単元展開のポイント

(1) 活動のポイント

活動名	活動のポイント
町たんけんの計画をたてよう	<ul style="list-style-type: none"> ・春の町のようにすを、1学期のワークシートを見て思い出す。 ・たんけんの場所を決める。 秋のようにす…総合運動公園、宝殿駅北のお店 やさしさ…総合体育館、宝殿駅 ・たんけんけいかくカードを書く。
町の中のやさしさを知ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳「うれしいねたのしいね」から、町にはどんなやさしさがあるのかを見つける。 ・キャップハンディ体験を通して障害のある人や介助する人の思いを感じとる。 白杖、アイマスク…教室、廊下、階段、児童玄関、玄関前を二人一組で歩く。 車いす体験…体育館、体育館脇のスロープを五、六人のグループに分かれて体験 ・目や体の不自由な人にとって、あったら便利でたすかるもの（「あったらいいな」）を考える。
町たんけんに出かけよう	<ul style="list-style-type: none"> ・発見したことをメモしながら、グループごとにたんけんする。 一日目…総合運動公園、体育館 二日目…宝殿駅、駅北のお店（本、服、カメラ、花、ケーキ、薬、手芸）
町たんけんのまとめをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・「町たんけんで見つけたよ」カードを書いてまとめる。 ・おすすめの場所の発表をする。 ・障害のある人のために自分たちにできることを調べたり考えたりする。 道徳「あやかちゃんあそぼ」 絵本「プレゼント」「指はまほうの探知器」 点字、手話

(2) 本単元に関連する内容

国語「じゅんじょを考えてせつめいしよう」

生活「もっと知りたいな町のこと」

道徳「うれしいねたのしいね」「あやかちゃんあそぼ」

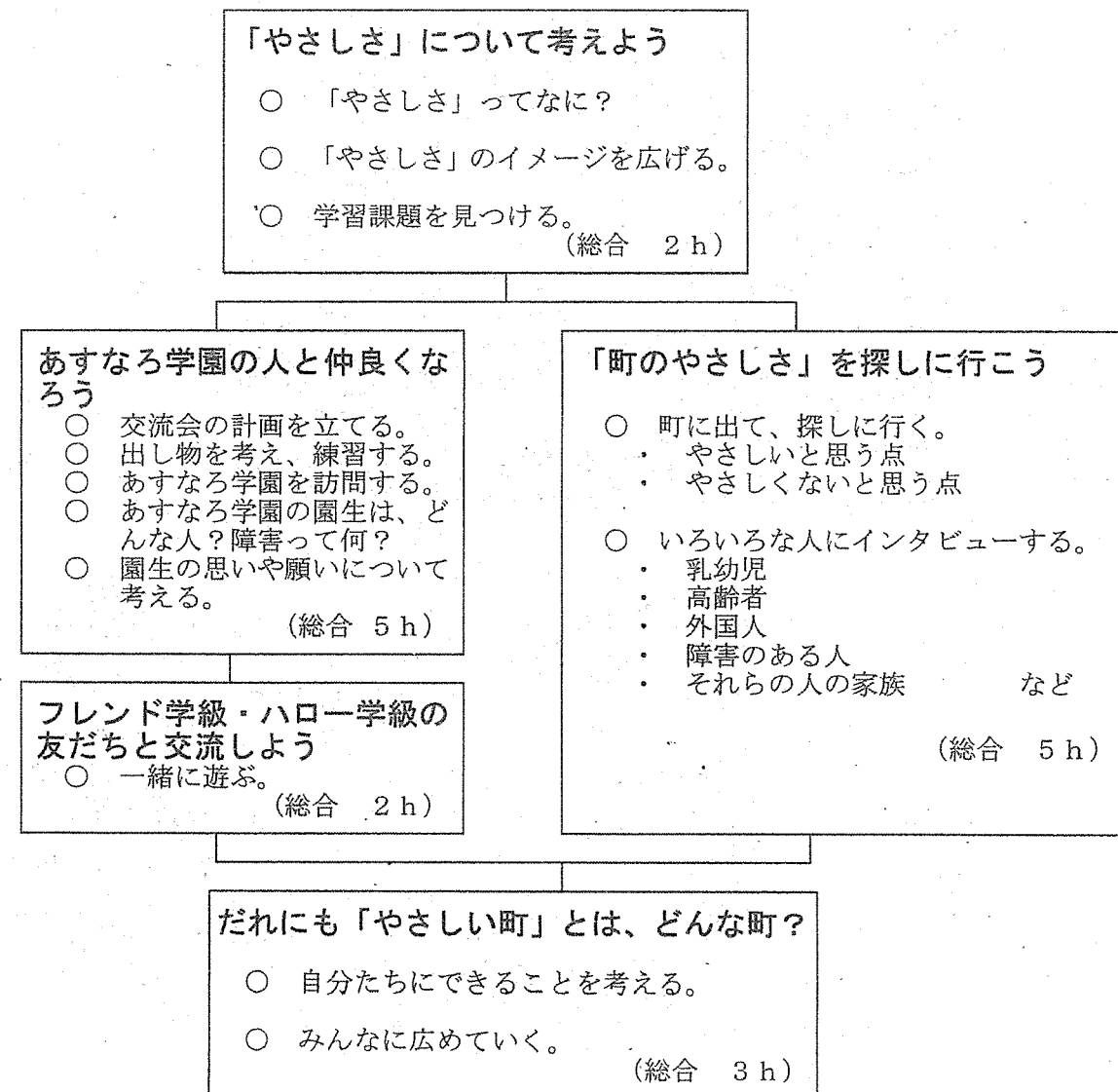
第3学年 単元学習 (第2学期)

1 単元名 「ふるさと わが町 パート2 一町のやさしさ 発見一」

2 単元目標

- 自分の身近な町のやさしさについて、疑問に思ったり、興味をもったりしたことから課題を見つけ、進んで調べようとする。
- あすなろ学園と交流することにより、園生の願いや思いを知ったり、体験したりしたことを、自分なりに整理し、わかりやすく表現することができる。
- 「やさしさ」について、自分にできることは何かを考え、共に生きていくことや、自分で行動することの大切さを知る。

3 単元構造図 (全 17時間))



4 評価基準

評価観点	単元目標	評価場面	評価方法	子どもの姿と しての表れ	支援の方向、 改善の視点
自ら学ぶ力 自己学習能力	自分の身近な町のやさしさについて、疑問に思ったり、興味をもったりしたことから課題を見つけ、進んで調べようとする。	○「やさしさ」について考えよう ○「町のやさしさ」を探しに行こう ○あすなろ学園の人と仲良くなろう ○フレンド学級・ハロー学級の友だちと交流しよう	○ワークシート ・文章 ・心の図 ○つぶやき ○発言 ○自己評価カード ○交流の記録	○共通体験などから、課題をもつ ○やさしさへの問題意識をもつ ○学習計画を立てる ○やさしさに対する自分の課題に沿って、進んで調べようとする	○具体的場面の想起 ○具体的活動の提供 ○カンファレンス(指導者との対話) ○見通しの確認
技能・体験・表現	あすなろ学園と交流することにより、園生の願いや思いを知ったり、体験したりしたことを、自分なりに整理し、わかりやすく表現することができる。	○「町のやさしさ」を探しに行こう ○あすなろ学園の人と仲良くなろう ○フレンド学級・ハロー学級の友だちと交流しよう	○ワークシート ・文章 ・心の図 ○発言 ○交流の記録 ○自己評価カード	○課題解決に役立つ情報を集める ○課題についての聞き取り、観察などの行動をとる ○やさしさについて分かったことを、文・図などを使って、相手にわかりやすくまとめる	○追求の方向性の確認 ○計画や解決方法のモデルを示す ○課題の想起 ○カンファレンス
生き方を考える力 生き方探究力	「やさしさ」について、自分には何かを考え、共に生きていくことや、自分で行動することの大切さを知る。	○「町のやさしさ」を探しに行こう ○あすなろ学園の人と仲良くなろう ○フレンド学級・ハロー学級の友だちと交流しよう ○だれにも「やさしい町」とは、どんな町？	○行動観察 ・友だちとの関わり、協力の仕方 ○ワークシート ・文章 ○作品 ○表現 ○自己評価カード	○やさしさに対する自分の思いを話し合う ○やさしさについて、自分たちでできることを考える ○町のやさしさを守るために、自分で行動することの大切さに気づく	○内容的深まりの吟味 ○まとめや自分の考えを示す ○カンファレンス ○適切な音量や速さを示す

単元展開のポイント

あすなろ学園生と交流をしよう。(2学期 10月1日・2日・3日)

クラスごとに児童全員が7つのグループに分かれ、タイル画・はがきづくり・アルミかんづぶし・パズルづくり・手織・さき織・結び織りの作業を体験した。それぞれのグループで園生の方や先生方に1時間ほど教えてもらいながら作業をした。始めのうちは話し方や聞き方がうまくできず、ぎこちない手つきであったが、慣れてくるにいたがっていろいろ教えてもらいながら楽しそうに積極的に取り組む姿が見られるようになってきた。

その後全員が集まり、全体の交流会が行なわれた。①クラスの出し物(歌・リコーダー奏など)②園生の自己紹介③園生の歌「この町で生きる」④全員によるフォークダンスなどが行なわれ、だんだん親しくなってきた。

児童の作文

あすなろ学園には、ことはきちんとしゃべれない人や、りかいできない人、耳がわるい人、手話をしている人がいたよ。色々なうがいをもっている人でもとてもやさしかったよ。行ったときはいっぱいドキドキしたよ。

わたしはむしびおりになうせんしたよ。「むしびおりでこんなざぶとんを作るんだよ」とむこうの人に教えてもらって、「よしがんばるゾー」と思ったよ。はじめはしっぱいばかりしていたけどだんだん慣れてきてたのしくできたよ。

あとの交流会で手をふないだときはとってもドキドキしたけど慣れてきたよ。わかれるとき、あすなろ学園のみんなが手をふってみおくってくれたよ。わたしはちょっぴりさみしかったよ。また行きたいな。

課題と成果

子どもたちは知的障害者について少しではあるが、自分なりに理解し、園生のやさしさやがんばりを知った。どのように接したらよいのか、自分たちにはできることは何かを考えることができるようになった。今度道で出会ったらあいさつをしようと意気込んでいる子どもも多い。

○障害をもっている人たちにやさしくしようという思いをもつことができるようになってきたが、自分たちの生活にもどったとき、友だちに対してこのことが十分生かしていない面がある。まわりのすべての友だちに対して、いつも思いやりの心をもち、やさしく接することのできる子どもに育てていきたい。



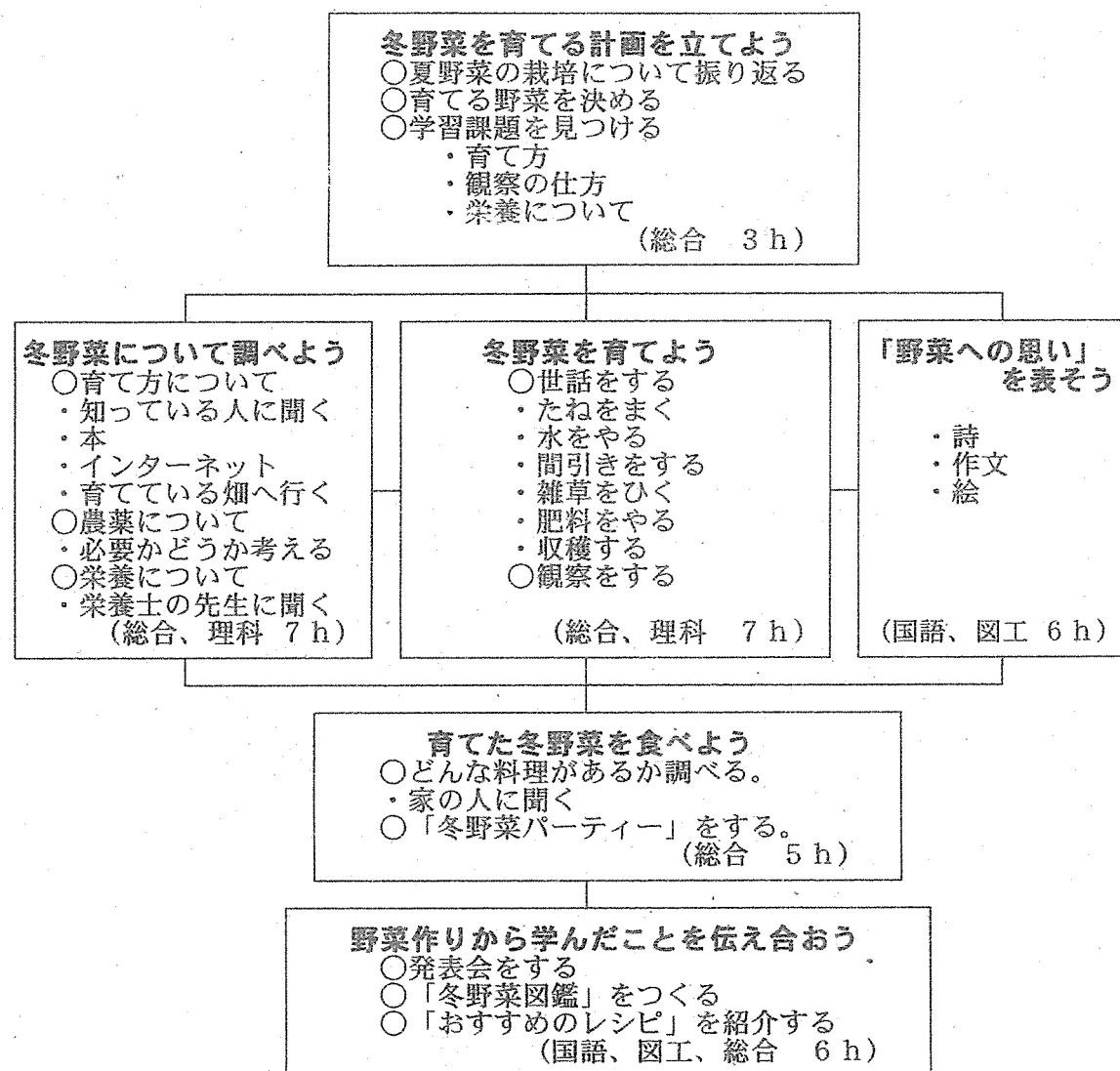
第3学年 総合的単元学習（第2学期）

1. 単元名 野菜を育てよう パート2 「冬野菜を育てよう」

2. 単元目標

- 「自分が好きになりたい冬野菜」について進んで調べながら育て、疑問に思った興味をもったりしたことから課題を見つけようとする。
- 野菜を育てていく上で生まれる課題を解決するための方法を考え、詳しく調べることができる。
- 野菜を育てる体験を通して、作物に愛着をもつとともに、栽培活動と人間や自然との関係を見つめ、自分はどうか関わっていくのかを考え行動することができる。

3. 単元構想図（全34時間）



4. 評価基準

評価観点	単元目標	評価場面	評価方法	子どもの姿としての姿	支援の方向、改善の視点
関心・意欲・態度	「自分が好きになりたい冬野菜」について進んで調べながら育て、疑問に思った興味をもったりしたことから課題を見つけようとする。 野菜を育てていく上で生まれる課題を解決するための方法を考え、詳しく調べることができる。 野菜を育てる体験を通して、作物に愛着をもつとともに、栽培活動と人間や自然との関係を見つめ、自分はどうか関わっていくのかを考え行動することができる。	冬野菜を育てる計画を立てよう 冬野菜について調べよう 冬野菜を育てよう 「野菜への思い」を表そう 育てた冬野菜を食べよう	ワークシート 詩や絵などの作品 行動観察 発言 自己評価	自分が育てたい野菜を選び、育て方などの課題をもつ 学習計画を立てる 育て方などを進んで調べ、世話をすることができる	具体的場面の想起 ウエビング 具体的活動の提供 カンファレンス 見通しの確認
技能・体験・表現	野菜を育てていく上で課題を解決する方法を詳しく調べることができる。	冬野菜を育てる計画を立てよう 冬野菜について調べよう 冬野菜を育てよう 「野菜への思い」を表そう 育てた冬野菜を食べよう	ワークシート 行動観察 ・農園での様子 ・調べ活動の様子 ・専門家の話の聞き方 発言 詩や絵などの作品 自己評価	課題解決に役立つ情報を、さまざまな方法で集める 調べたことを生で観察や世話をしたり観察したりして分かりやすくとまとめる 野菜に対する自分なりの思いをもち、詩などの作品に表す 野菜を使った料理をみんなで協力して作る	課題解決に必要な情報の収集の仕方などの提示 観察や世話の仕方の説明 必要な場面での肥料や農薬などの提供 ゲストティーチャーから指導を受ける場の設定 集めた情報を交換し、話し合うための場の設定 カンファレンス（特に、活動に行きづまっていた子との対話）
生き方・学び方	野菜を育てる体験を通して、作物に愛着をもつとともに、栽培活動と人間や自然との関係を見つめ、自分はどう関わっていくのかを考え、行動することができる。	冬野菜について調べよう 冬野菜を育てよう 「野菜への思い」を表そう 育てた冬野菜を食べよう 野菜作りから学んだことを伝え合おう	行動観察 ワークシート（特に活動の「振り返り」） 詩や絵などの作品 発言 発表 自己評価	栽培活動を通して、その楽しさや難しさなどに気づく 野菜作りにおける農薬などの使用について自分なりの考えをもつ 野菜作りを通して生まれた自分の思いや考えをもとに話し合う 野菜作りの体験を今後どう生かせるか考える	自分なりの思いや考えをもつことの促し カンファレンス 必要な場面に活動を振り返る場の設定 分かりやすいまとめや発表の仕方の提示

5. 単元展開のポイント

活動名	活動のポイントなど
冬野菜を育てる計画を立てよう	一学期に、自分の苦手な夏野菜を育てたことを振り返り、二学期も「自分が好きになりたい冬野菜」をひとつ選び、育てることを知らせた。子どもたちが選んだ野菜は以下の通りである。 ダイコン・ニンジン・ホウレンソウ・白ネギ・春菊 カブ・カリフラワー・キャベツ・ラディッシュ
冬野菜について調べよう	○資料で調べるだけでなく、全員必ず一度は野菜を育てている人にインタビューしに行くようにした。(グループや個人で) ○ゲストティーチャーの武元さん(本校の代行員)に、教室や農園、武元さん自身の畑で、野菜について教えていただいた。 ○「農薬が必要か、必要でないか」について考えた。 ・必要(理由:虫がつきやすい野菜だからなど)・必要でない(理由:体に悪いし、虫がついたら自分たちでとるからなど)・両方試す(理由:育ちなどを比べ、今後の野菜作りの参考にしたいからなど) ○調べた内容は、自分のワークシートだけでなくみんなが読めるようにダンボールの「掲示板」を作り、それに貼り、教室や廊下に置いて情報交換の場とした。
冬野菜を育てよう	○観察や世話については、特に ①毎日行うこと ②見るだけでなく、触る、におうなどの五感を使うこと ③自分の育てている野菜だけでなく、他のクラスの栽培の様子なども見て参考にすること の三点を常に心がけるよう伝えた。②と③は少しずつ定着してきたようだったが、①に関してはしなない子も出てきたので、「冬野菜日記」というワークシートを作り、毎日農園でしたこと、気づいたことなどを簡単に書くようにした。 ○「間引き」は、教師自身がやり方に自信がなかったのを武元さんに直接農園で指導していただき、非常に良かった。 ○自分たちの野菜に農薬が必要と判断したところには教師が「オルトラン」という顆粒をまいた。子どもには薬にはさわらないことや、人体への影響を考え、収穫より1か月以上前にまくことなどの説明をした。
「野菜への思い」を表そう	野菜への思いを詩などの作品に表した。下はある児童の詩である。 <div> <p>ぐんぐんそだった ダイコンの葉</p> <p>はじめにたねを うえたとき ちゃんとのびるか 心配で 総合の時間：不安だった</p> <p>小さなかわいい「め」が でたとき とってもうれしく にこにこで 総合の時間：楽しかった</p> <p>そして今 かわいい「め」が ぐんぐんのびて 大きなたくましい葉になった</p> <p>うれしいな うれしいな これからのんになるのかな</p> </div>
育てた野菜を食べよう	○育てた野菜を使って料理をした。作り方は家の人などに聞いて調べた。条件は①自分たちで作れる②45分以内に作れるなどとした。みそ汁やサラダ、おひたし、ごま和え、酢のものなどに決まった。火を使うものもあり心配だったがうまく作れて正直驚いた。みんなでわいわいとおおいしくいただいた。 ○キャベツとカリフラワーは、食べられるまでには育たなかったため、それらを育てた子たちは他の野菜の料理に参加した。
野菜作りから学んだことを伝え合おう	○野菜作りを通して学んだことや感じたことを振り返り、発表し合った。次のような意見が出された。 ・はじめはうまく育つか心配だったけど、大きく育ってうれしかった。

- ・育たなくて枯れてしまったから残念だった。うまく育てるのはむずかしいな。
→農薬について聞くと、「農薬を使って野菜が育った」子からは「使わなくてもうまく育ったかも」と、「農薬を使わず野菜が育たなかった」子からは「農薬を使った方がよかった」「でも体に悪いし・・・」という意見が出た。
- ・農園に行くのが楽しかった。野菜の育ち方がよく分かった。
- ・嫌いな野菜を育てていたのに、なぜか育てている途中で好きになってきた。食べるとよけいに好きになった。やっぱり自分で育てたからかな。
→「自分が育てた野菜が好きになった」という子が増えた。
- ・武元さんやいろんな人に話を聞いて知らなかったことが分かった。とても親切に教えてくれてうれしかった。
- ・料理を作るのがとても楽しかった。家でもまた作りたい。
- ・またいろんな野菜を育ててみたい。

単元を振り返って (☆は成果、★は課題)

- ☆農園での活動なのでいつでも観察や世話ができ、子どもたちの意欲が持続しやすかった。
- ☆栽培活動の楽しさを知ることができた。また、野菜だけでなく虫に対する関心も強くなった。そんな活動で生まれた思いを表現豊かな詩などに表せた。
- ☆さまざまな方法で野菜作りについて詳しく調べることができた。
- ★教師自身が野菜作りに関する知識や経験が少なく、子どもたちに適切な支援があまりでなかった。更なる勉強が必要である。
- ☆ゲストティーチャーや地域の方などの専門家の方に教えていただいたことは、子どもたちにとって野菜作りに直接役立ちよかった。
- ☆教師自身も、専門家の方から次のようなお話を聞いて良かった。「三年生の子がそう簡単に立派な野菜が作れたら農家は苦労しない。失敗も一つの経験。今年育たなかった子も、この一年が無駄になった訳ではなくて、いろんなことに気づけてよい経験ができています。」
- ★野菜作りについては、さまざまな方法や考え方があるので、ゲストティーチャーの選び方も含め、いろんな角度からの情報が集まるよう、配慮する必要がある。
- ☆農薬の使用について自分なりに考えることができ、これからの自分たちの食生活などを考えるきっかけになった。
- ★農薬を扱うことには不安が大きかったので実際に使用した量は少ない。そのため野菜にどれくらい影響があったのか疑問である。
- ★農薬の説明の難しさを感じた。肥料との違いをはっきりさせるため、悩んだ末「虫」に焦点を置こうと思い、「虫がつかなくするための薬」と説明したが、病気のことにやはり触れる必要はあった。また、「益虫」の視点からの学習を深められなかった。
- ★「育たなかったから農薬を使った方がよかった」という子どもの意見が出たが、土作りや育て方に問題はなかったのかをもう一度考えることにより、野菜作りの苦労に迫りたい。
- ☆野菜嫌いの子が少なくなってきた。(いいのか悪いのか、「自分が育てた野菜なら食べるが、それ以外は食べられない」という子もいる。)
- ☆総合の時間に、教科の学習では見られない子どもの新たな良い面を知ることができた。
- ★総合と教科がうまく絡み合う、効果的で且つ子どもが意欲を持てる学習のあり方とは？
- ★子ども一人ひとりの活動の様子を把握することと、評価の仕方が難しいと感じた。
- ☆積極的に地域を回って野菜を育てている人に話を聞くことができた。中には十力所以上の畑をまわったり、実際に農薬で虫が死ぬところを見せてもらった子もいて、学校ではできない体験をしている。武元さんにもそうやって子どもたちが教えていただいた中の一人である。協力して下さった地域の方々には本当に感謝している。
- ★地域を回る調べ学習について、保護者の中には「子どもが家に帰ってくるのが遅い」「漢字や計算の宿題が出ている方が親として安心する」という方もいた。子どもたちへの指導の徹底や、保護者への納得のいく説明、基礎基本の充実などの課題を感じた。



← 武元さんに農園で教えてもらったよ



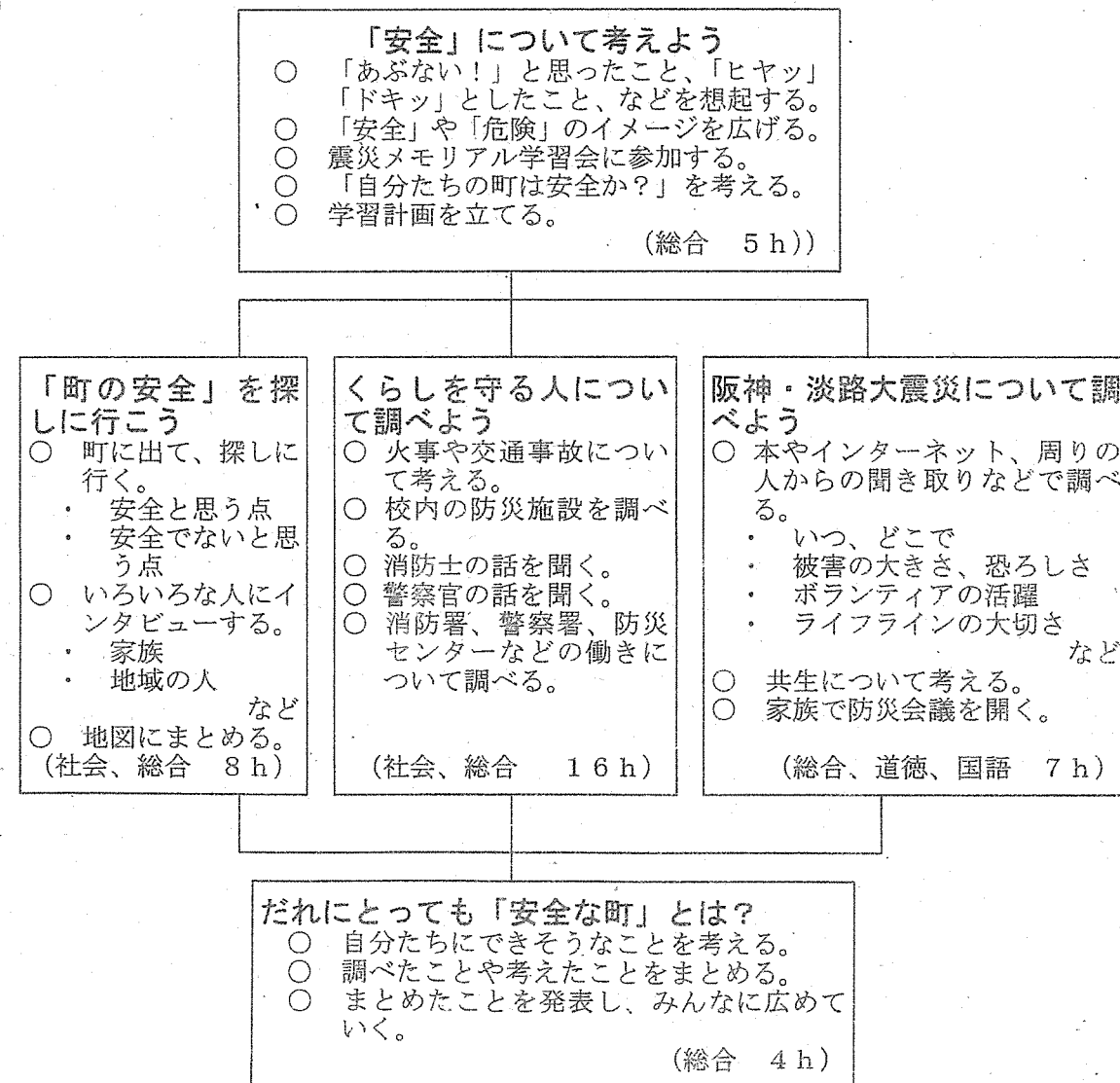
↑ こんなに大きくなったよ!

1 単元名 「ふるさと わが町 パート3 一町の安全 発見」

2 単元目標

- 自分の身近な町の安全について、疑問に思ったり、興味をもったりしたことから課題を見つけ、進んで調べようとする。
- 自分の住んでいる町の安全や、くらしの安全を守る人々の働きについて、調べたことを、自分なりに整理し、わかりやすく表現することができる。
- 「安全」について、調べたことや考えたことをもとに、自分にできることは何かを考え、共に生きていくことや、自分で行動することの大切さに気づく。

3 単元構造図 (全 40時間)



評価観点	単元目標	評価場面	評価方法	子どもの姿としての表れ	支援の方向、改善の視点
自ら学ぶ力 自己学習能力	自分の身近な町の安全について、疑問に思ったり、興味をもったりしたことから課題を見つけ、進んで調べようとする。	○「安全」について考えよう ○「町の安全」を探しに行こう ○くらしを守る人について調べよう ○阪神・淡路大震災について調べよう	○ワークシート ・文章 ・ウェビング ○行動観察 ・探検の様子 ○発言 ・つぶやき ○自己評価カード	○共通体験などから疑問や課題をもつ ○安全への問題意識をもつ ○学習計画を立てる ○安全に対する自分の課題に沿って、進んで調べようとする。	○具体的場面の想起 ○ウェビング ○具体的活動の提供 ○カンファレンス（指導者との対話） ○見通しの確認
技能・体験・表現	自分の住んでいる町の安全や、くらしの安全を守る人々の働きについて、調べたことを、自分なりに整理し、わかりやすく表現することができる。	○「町の安全」を探しに行こう ○くらしを守る人について調べよう ○阪神・淡路大震災について調べよう	○ワークシート ・インターネットや聞き取りで調べた内容 ・文章 ○行動観察 ・探検の様子 ・専門家の話の聞き方 ○発言 ○作品 ○自己評価カード	○課題解決に役立つ情報を集める ○課題についての聞き取り、観察などの行動をとる ○集めた情報から必要なものを選び、安全に対する自分の思いをもつ ○安全について自分かたことを、文・図・絵などを使って、相手にわかりやすくまとめる	○追求の方向性の確認 ○計画や解決方法のモデルを示す ○課題の想起 ○情報の意味調べを促したり、必要な箇所を線や矢印など、要点を整理しやすくさせる ○カンファレンス
生き方を考える力 生き方探究力	「安全」について、調べたことをもとに、自分にできることは何かを考え、共に生きていくことや、自分で行動することの大切さに気づく。	○「町の安全」を探しに行こう ○くらしを守る人について調べよう ○阪神・淡路大震災について調べよう ○だれにとっても「安全な町」とは？	○行動観察 ・友だちとの関わり、協力の仕方 ○ワークシート ・文章 ○作品 ・発表 ・プレゼンテーション ○自己評価カード	○筋道を立てて話す ○安全に対する自分の思いをもとに話し合う ○安全について、自分たちにできそうなことを考える ○町の安全を守るために、自分で行動することの大切さに気づく。	○内容的深まりの吟味 ○カンファレンス ○まとめや発表のメニューを示す ○適切な音量や速さを示す

5 単元展開のポイント

(1) 学年テーマ

「たんけん はっけん ひょうげん」

「たんけん」 足で学ぶ

「はっけん」 目で学ぶ

「ひょうげん」 表して学ぶ

体を使って、五感で（五感で）学ぶ

今年の3年の学年目標は、上に書いたように、「たんけん はっけん ひょうげん」である。行動範囲の広がる、ギャングエイジのこの時期の子どもたちにとって、「たんけん」という言葉は、非常に魅力的な響きがある。また、3年の学習内容も、空間的にも時間的にも広がりを見せ、まさに「たんけん」にふさわしい内容である。そうした体験的な活動の中で、子どもたちには、身の回りのいろいろな「ひと」「もの」「こと」について、たくさんのことを、自分なりに「はっけん」してほしいと願っている。そして、自分たちが見つけたことを、自分の言葉で、周りの人に「ひょうげん」してほしいと思っている。21世紀を生き抜く子どもたちにとって、自分の思いを伝える力や、コミュニケーション能力は、欠かすことのできない力になるからである。

「たんけん はっけん ひょうげん」を合い言葉に、子どもたちと豊かな学習活動を積み重ねていきたいと思って、実践してきた。

(2) キーワード

「野菜」(栽培) 「町」(探検、交流)

(3) 単元構想

- 野菜を育てよう パート1 「夏野菜を育てよう」
- 野菜を育てよう パート2 「冬野菜を育てよう」
- ふるさと わが町 パート1 「町の楽しさ 発見」
 - ・ お気に入りの場所、お薦めの場所
 - ・ 公共施設（みんなで使える施設）
- ふるさと わが町 パート2 「町のやさしさ 発見」 ストーリー性
 - ・ 「やさしさ」について考えよう
 - ・ 町は、住んでいる人に「やさしい」か？
 - ・ あずなろ学園との交流
 - ・ 障害者の視点から
 - ・ 誰にも「やさしい」町とは？
- ふるさと わが町 パート3 「町の安全 発見」
 - ・ 「安全」について考える
 - ・ 阪神・淡路大震災から
 - ・ 町の安全を調べよう
 - ・ 防災の仕組み、人々のはたらき
 - ① 「やさしさ」からのつながり
 - ② たんけん パート3
 - ③ 社会 「くらしを守る」との関連

(4) 総合的な学習の時間 年間105時間 の内訳

- 野菜を育てよう パート1、パート2 28時間（各14時間）
- ふるさと わが町 パート1、パート2、パート3 42時間（各14時間）
- パソコン（情報） 35時間（週1時間）

(5) 本単元

- はじめ 「安全」 → 交通安全に重点が行く → 広い意味での安全
交通事故、地震、不審者、置換、いたずら電話、(水害、台風) など
女子 → 安全であると思う 0 安全であると思える子が増えれば
- 課題設定 ウェビング
震災メモリアル学習会 林先生の話

安全を大切にしようという意識づけ
課題追求 3つの柱 町の安全を探しに行く

阪神・淡路大震災について調べる

くらしを守る人の存在について調べる 消防士、警察官、
自衛組織

表現 自分でできることを考えながら、安全な町について、考えを深めていく

発表 広めていく

- 施設 → 町の人のパトロール、消防団など 自衛組織

くらしを守る人の存在に

- 施設や設備よりも、マナーなど、使う人の問題
ガードレールなど、施設がないのはなぜか?? 本人の責任ある行動
安全でないことをする人の行動が問題

- 自分にできそうなことを意識させながら、
最終的に 自分の責任ある行動が、安全につながる、ということにつなげてい

きたい

- 防災から、減災へ

(6) 成果と課題

子どもたちが、実際に町に出て、探検し、自分の目で安全について調べ、友だちとの学び合いの中で、地図も読めるようになってきた。

- ・ 安全に関する子どもたちの観点がさまざまで、子ども同士の中に、思いのズレを生んでしまったのではないかな・・・
- ・ 子どもたちの追求を、教師がもっとつなげていけなくてはならないと思った。
- ・ 研究授業をすると、子どもの頑張りが見え、子どもに対して、より優しくなれる気がする。

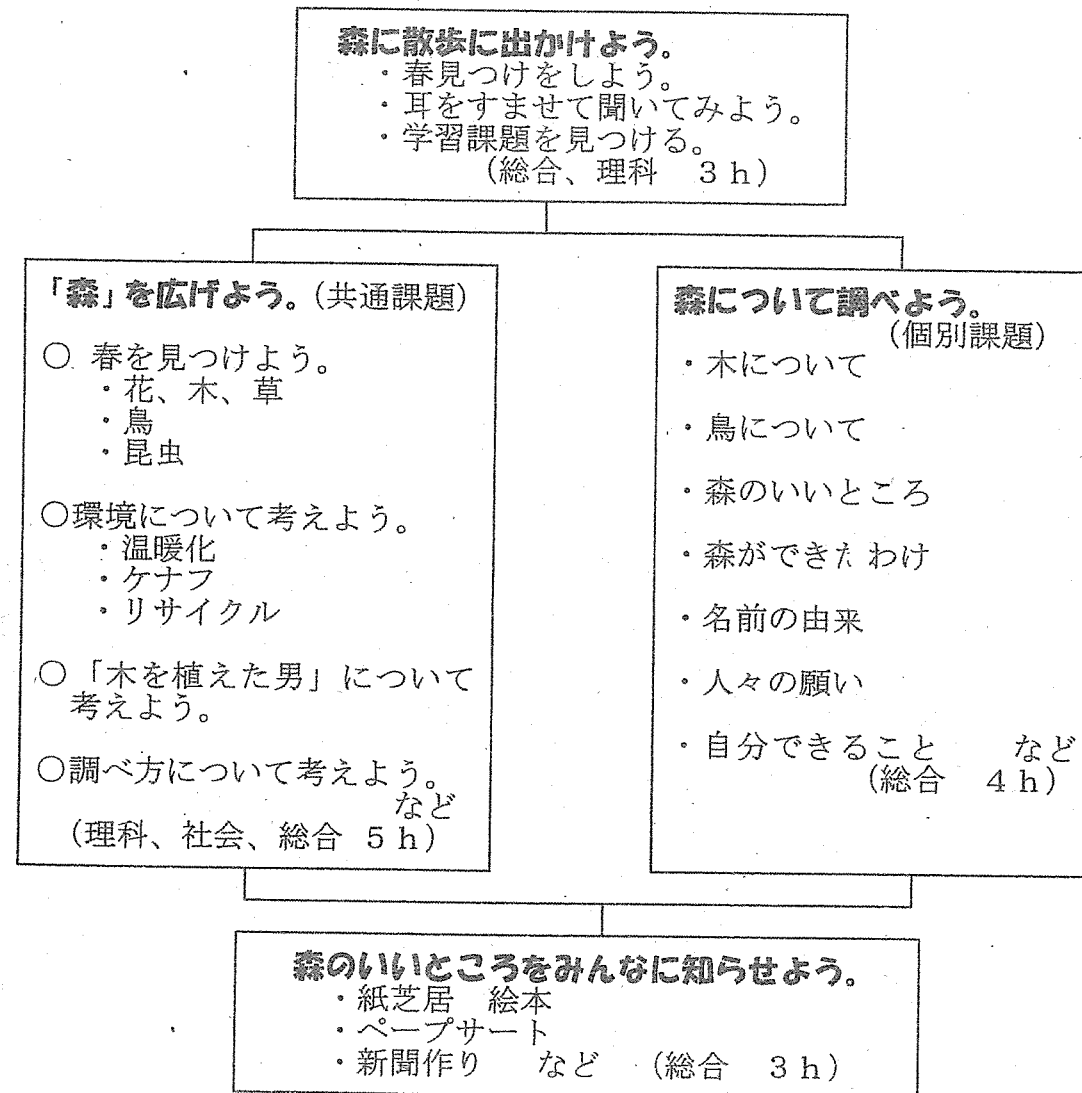
第4学年 総合的単元学習（1学期）

1. 単元名 わが町ズームイン パート1 ライオンズの森

2. 目標（単元目標）

- 身近にある森に出かけることにより、疑問に思ったり、興味をもったりしたことから課題を見つけ、進んで調べることができる。
- いろいろな方法を通して見つけたり気づいたりした森のよさなどをわかりやすくまとめ、表現方法を工夫し、知らせることができる。
- 同じ地球に暮らす仲間として、植物や動物などに対して自分にできることを考える。

3. 単元構造図（全 15時間）



4. 評価基準

評価観点	単元目標	評価場面	評価方法	子どもの姿としての表れ	支援の方向、改善の視点
関心・意欲・態度	身近にある森に出かけることにより、疑問に思ったり、興味をもったりしたことから課題を見つけ、進んで調べることができる。	課題設定 課題追求 森に散歩に出かけよう 森を広げよう 森について調べよう	観察 ワークシート つぶやき 発言 ウエビング 自己評価カード	森林浴に関心をもつ。 森の生き物に対して問題意識をもつ。 疑問文として表現する 柱立て作成 計画を立てる	見通しの確認 具体的活動（五感を通して）の調査 ウエビング カンファレンス（指導者との対話）
技能・体験・表現	いろいろな方法を通して見つけたり気づいたりした森のよさなどをわかりやすくまとめ、表現方法を工夫し、知らせることができる。	課題追求 森を広げよう 森について調べよう 森のいいところをみんなに知らせよう	ワークシート 観察 発言 文章 作品 ウエビング 自己評価カード	活動の準備が出来る 課題解決に役立つ情報を集める 課題について、現地に出かけて実際に調べてみる。 集めた情報から必要なものを選び、自分の思いをもつ	個々に応じた調べ方について「調べヒント集」をもとに具体的に提示 課題の想起 調べた内容毎にグループ分けをして内容的深まりの吟味 カンファレンス
学び方・生き方	同じ地球に暮らす仲間として、植物や動物に対して自分にできることを考える。	表現・伝達 ケナフの観察 森を広げよう 森について調べよう 森のいいところをみんなに知らせよう	文章 作品 プレゼンテーション 観察 自己評価カード	分かったことを文・図・絵などを使って、相手にわかりやすくまとめる 筋道を立てて話す 自分の思いをもとに話し合う ケナフを大切に育てようとする 植物や動物に関わる環境に関心をもつ	まとめや発表メニューを示す 適切な音量や早さを示す 分かったことを伝え合うことも一つの行動であることを提示する 将来に向けての継続観察 カンファレンス

5. 単元展開のポイント

○森に散歩に出かけよう。

- ・校区にある「ライオンズの森」へ理科学習「春見つけ」にでかけるという体験から課題見つけをはじめる。
- ・「ライオンズの森」をえらんだ理由
 - ①校区にあり常に子どもだけで調べ学習を進めることができる。年間を通じて観察可能。また、生涯を通じても観察可能。
 - ②地域の人たちの願いで子孫に自然を残そうという目的で作られた森である。地域の願いや自然保護について考えることができる。
 - ③かなり大きな楠木や、鳥の巣もあり五感を通じて森を感じることができやすい。自然の木の心地よさを味あうことが少しでもできる。(森林浴)夏涼しく、冬温かい。
 - ④「ライオンズの森」については、高砂商工会議所に連絡すれば詳しく教えていただける。「ライオンズクラブ」創設のライオンズの森である。
- ・個人で課題を見つけ、調べる方法も計画も自分で考えてさせることにより、主体的に活動できるように時間設定をした。

○森を広げよう。

- ・一斉授業で、「地球の温暖化」「ケナフの植樹」「リサイクル」「木を植えた男」などを学習
- ・調べ方において、さらにはばをもたせるために、「調べ方のヒント集」を作成し、各個人に持たせた。社会科の授業の中でも、調べ方の学習分野があり、ダブルところもある。教科と総合の関わりを「調べ学習の方法」と、いう点からはもう少し系統立てて計画を立てて考えていかなければいけないかもしれない。

○森について調べよう。

- ・「森」について調べていくと、「森のよさ」や「森と他の生き物との関係」が見えてきた。「ライオンズの森」を通して、自然環境保護の大切さや生き物との連鎖へと子ども自身の中に思考の流れができてきた。
- ・ワークシートを使用することによって、個々の調べているようすがチェックできる。また、困ったことも個に応じて対応することができる。この時点で複数の指導者がいればもっときめ細やかな支援が可能。
- ・少数ながらもファクスや手紙、インターネットを利用した調べ方ができていた。

○森のいいところをみんなに知らせよう。

- ・個人の課題からスタートしたので、自分の知らないことを友だちが調べて発表していることに大変興味をもって聞いていた。
- ・「森」について考えていく中で同じ地球に暮らす仲間として、植物や動物に対して自分にできることを考えていこうという意欲がみられた。

☆単元学習の終わりに「学習のふりかえり」をやったところ、もっと調べたいことに身近な「法華山谷川」や「竜山石」をあげていた。常に自分のそばにありながら気づかないことが多い。一つのことに視点をあててじっくり考えていくと全てのものがつながってくるように思う。そのためにもいかに教材をとらえるかが問題となってくるように思う。

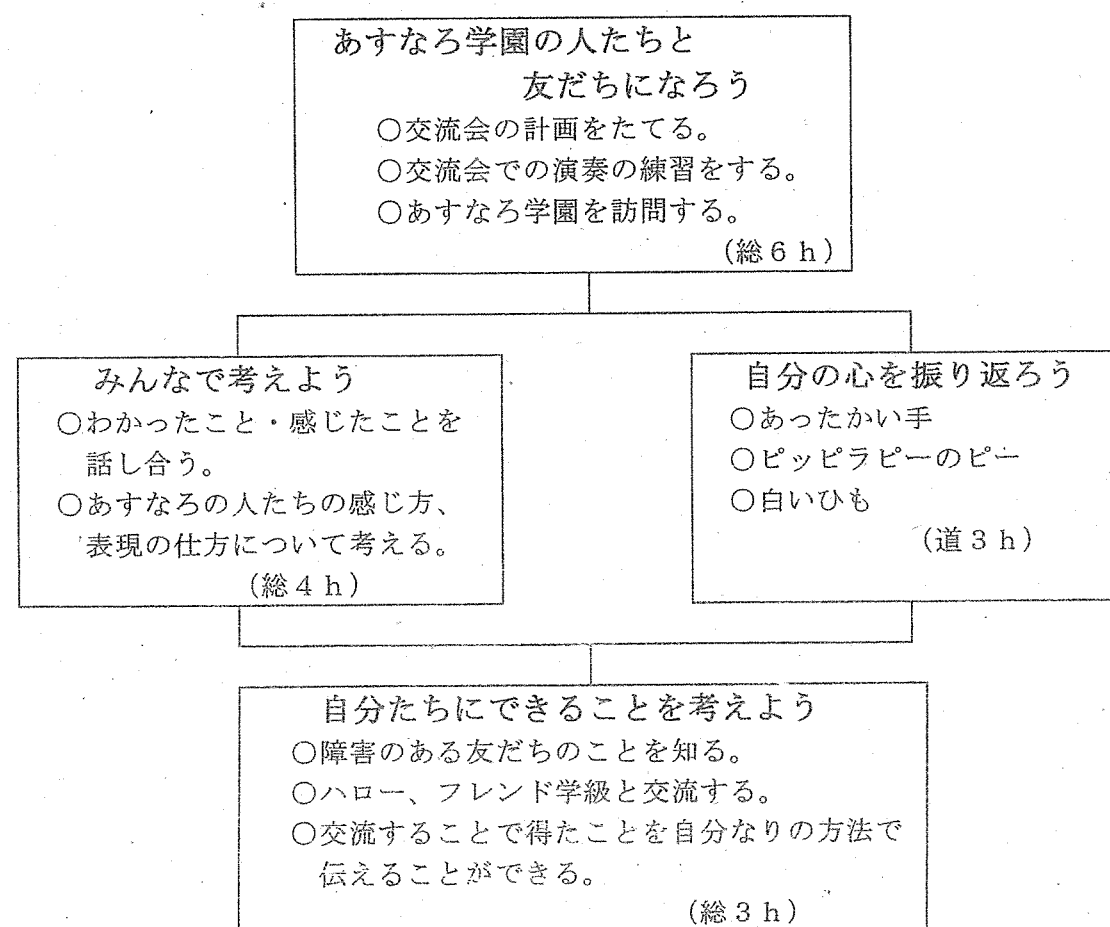
第4学年 総合的単元学習（第1学期）

1. 単元名 出合い ふれあい みんな仲間

2. 単元目標

- あすなろ学園の人たちと交流することにより、一人ひとりの個性を大切にすることに気づくとともに、よりよい交流のあり方を探ろうとする。
- 交流を通して、わかったこと感じたことを身近な人にわかりやすく伝えることができる。
- ちがいを認め合い、共に生きていく上で、自分たちのできることを考え実践していこうとする。

3. 単元構造図（全16時間）



4. 評価基準

評価観点	単元目標	評価場面	評価方法	子どもの姿としての表れ	支援の方向 改善の視点
関心・意欲・態度	あすなろ学園の人たちと交流することにより、一人ひとりの個性を大切にすることに気づくとともに、よりよい交流のあり方を探ろうとする。	あすなろ学園の人たちと友だちになろう みんなで考えよう 自分を振り返ろう 自分たちにできることを考えよう	観察 行動 つぶやき 発言 感想文	共通体験から感想をもつ みんな一人ひとりちがいや個性があることに気づく	一人ひとり、いろいろな個性があることに気づかせる
技能・体験・表現	交流を通してわかったこと・感じたことを身近な人にわかりやすく伝えることができる。	みんなで考えよう 自分を振り返ろう 自分たちにできることを考えよう	観察 行動 発言 ワークシート ふり返りカード 保護者の感想	友だちの意見を聞き、自分の考えを持つ 自分の思いや考えを発表したり、文章に表現したりする	一人ひとりの感じ方や表現のしかたはちがうけれど、心は同じであることに気づかせる
学び方・生き方	ちがいを認め合い、共に生きていく上で、自分たちのできることを考え、実践していこうとする。	みんなで考えよう 自分を振り返ろう 自分たちにできることを考えよう	観察 行動 発言 ワークシート ふり返りカード	自分の生活を振り返り、お互いのちがいを認め合い、共に生きていこうとする心を持つ 自分たちにできることは何かを考える	外見だけで人を判断するのではなく、その人の本当の姿を知ろうとすることの大切さを理解できるようにする 障害のある人と共に生きていこうとする意欲を持たせる

5、単元展開のポイント

活動名	活動のポイントなど
あすなろ学園の人と友だちになろう	<ul style="list-style-type: none"> ○交流会の事前打ち合わせ ○道順確認 ○安全確保のため、保護者へ引率ボランティアを依頼
みんなで考えよう	<ul style="list-style-type: none"> ○交流会の感想をもとに話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・思ったまま、感じたままを書かせ、全員の文章を印刷してとじ、家庭へ持ち帰らせ家庭への啓発も進めた。 ○交流会をふり返り、これからの自分のあり方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・園生さんのお母さんからの手紙を授業の中で読み聞かせた。授業後のワークシートには、「来年あすなろ祭に行ってみたい。」「またあすなろ学園の人たちと交流したい。」という感想も多かった。
自分の心をふり返ろう	<ul style="list-style-type: none"> ○体験をふまえることで、資料をより深く読みとらせ、共感させていく。 ○道徳的価値を他人ごとでなく、自分との関わりで見つめる。 ○これからの自分について、深く考えていく。
自分たちにできることを考えよう	<ul style="list-style-type: none"> ○ハロー・フレンド学級と交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・あすなろ学園との交流から始まったこの単元だが、まずは自分たちの学校の中から障害のある人たちへの理解を深め実践していくことが大切であると考え、本校のハロー・フレンド学級へ視点を移していくことにした。 ・山本先生、大島先生にゲストティーチャーとして授業に入ってもらい、児童のがんばりや担任としての願いなどを話してもらった。 ・7/12（金）ゲーム交流会（体育館） ・11/7（木）給食交流会

単元づくりの悩み

障害のある人への理解を深め、お互いのちがいを認め合い、共に生きていこうとする心や態度を育てていくには、1度きりの交流会で終わることなく、これからも交流を続けていくことは大切である。2学期には、あすなろ学園の園生さんをまねいての交流会を考えていたが、日程の都合がつかなかった。次回の交流会は、2月25日に予定している。

あすなろ学園のように外部との交流を組み込んだ単元学習を考えると、日程調整や学年での取り組み方のむずかしさを感じている。

第4学年 単元学習（2学期）

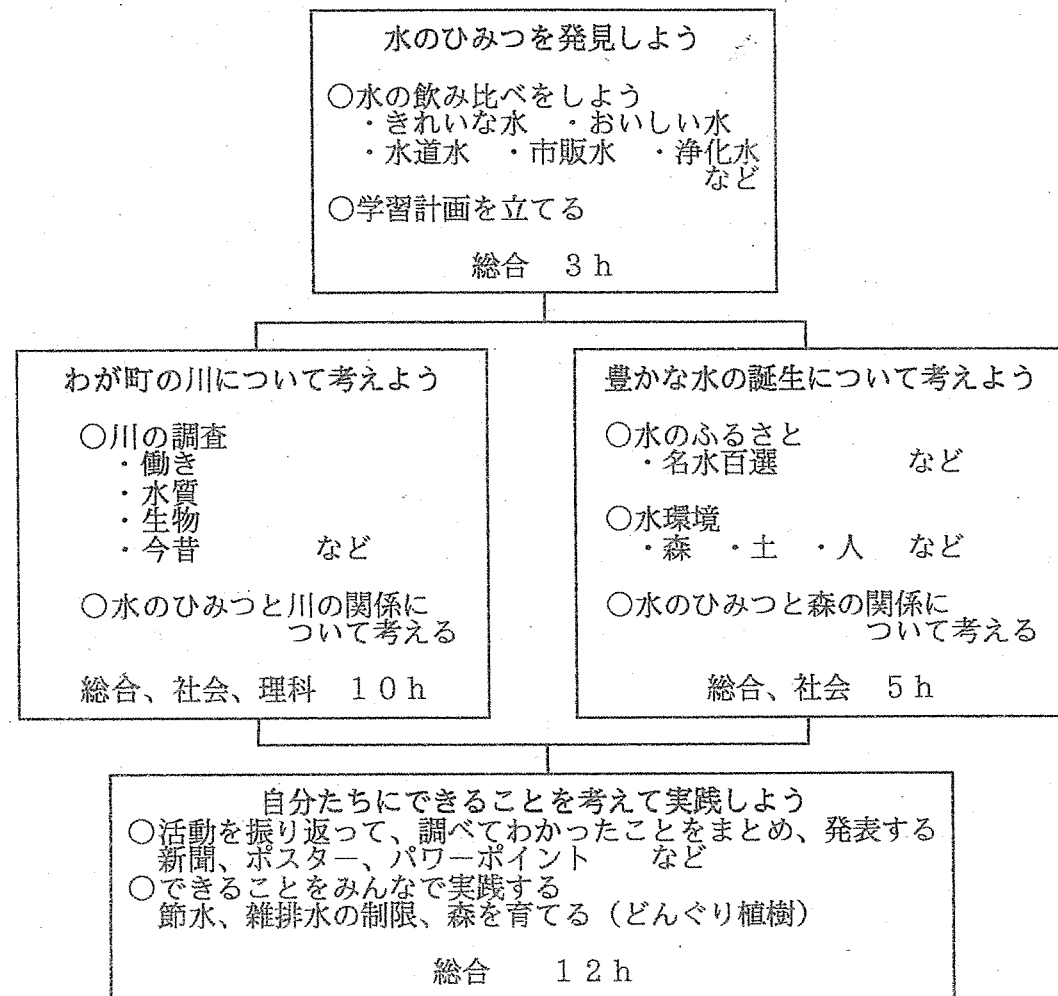
指導者 柴田 宏

1 単元名 わが町ズームインパート2 —— 水のひみつを発見しよう ——

2 単元目標

- 自分たちの生活の中で欠かすことのできない水について、疑問に思ったり、興味を持ったりしたことから課題を見つけ、計画を立て進んで調べようとする。
- 水に相互関連する要素をいろんな角度から調べ、わかったことをまとめ、周りの人によくわかるように工夫し、表現することができる。
- 快適便利な日常生活を振り返り、水環境を守るために必要なこと、自分たちにできることは何かを考えたり、実践したりすることができる。

3 単元構造図（全 30時間）



4 単元学習 「水のひみつを発見しよう」 評価基準

評価観点	単元目標	評価場面	評価方法	子どもの姿としての表れ	支援の方向、改善の視点
関心・意欲・態度	自分たちの生活の中で欠かすことのできない水について、疑問に思ったり、興味を持ったりしたことから課題を見つけ、計画を立て進んで調べようとする。	課題設定 課題追求 水のひみつを発見しよう わが町の川について考えよう 豊かな水の誕生について考えよう	観察 ワークシート つぶやき 発言	生きていくために絶対必要な水について疑問、興味を持つ。 自らの課題を見つけ、計画を立て、解決しようとする	狭義な水ではなく、広義な水として捉えさせる。 具体物の提示、提供 カンファレンス
技能・体験・表現	水に相互関連する要素をいろんな角度から調べ、わかったことをまとめ、周りの人によくわかるように工夫し表現することができる。	水のひみつを発見しよう わが町の川について考えよう 豊かな水の誕生について考えよう 自分たちにできることを考えて実践しよう	観察 行動ワークシート つぶやき 発言 具体的表現文章（感想） 自己評価	課題解決に役立つ情報、資料等の収集をする。 体験、実験、観察等をする。 収集された情報、資料をもとに自分の考えを持ち、表現する。	収集された情報、資料等の解説、説明。 体験場所の設定 ゲストティーチャー、専門家講師の招聘 カンファレンス
学び・生き方	快適便利な日常生活を振り返り、水環境を守るために必要なこと、自分たちにできることは何かを考えたり、実践したりすることができる。	水のひみつを発見しよう わが町の川について考えよう 豊かな水の誕生について考えよう 自分たちにできることを考えて実践しよう	観察 行動ワークシート つぶやき 発言 プレゼンテーション 具体的表現文章（感想） 自己評価	課題解決、学習したことを個々に出し合い、相互理解させる。 どんなプレゼンテーションにするか班で話し合う。 具体的な行動、実践する。	水環境保全者、団体、ボランティア等の照会 具体的実践内容の照会、提供 カンファレンス

5 活動のポイント

◎児童の興味・関心と「生きる力」とは何か。

1. 水のひみつを発見しよう

(1)この学習活動については、1学期に上・下水道を社会科で学習したことが伏線となり「水のたび」を学習した。

その中から児童は、水といってもいろいろある。

①水はどうやってできるの？

②川、海、池、湖・・・は、どうやってできるの？

③井戸水や伏流水、水道水・・・は、どこがちがうの？

といった興味・関心をウェビングで集約していった。

ウェビングで集約していったものを、さらに絞り込み「水のひみつ」ということで、総合的な学習を計画していった。

(2)「水のひみつを発見しよう」

児童の興味・関心を最大限に引き付け、引き上げるには、

5感を使うことである。

- ・目 — 見る
- ・耳 — 聴く
- ・鼻 — 匂う
- ・口 — 味わう
- ・手 — 触る

そして
感じとることである

この中で、特に人間は、飲食、食べたり、飲んだりすることに対して、非常に興味を示す。

そこで、

①「水の飲み比べをしよう」ということから始めた。

- ・きれいな水（湧き水、銘水（名水）等）
- ・おいしい水
- ・水道水
- ・市販水
- ・浄化水
- ・井戸水

- ・児童は興味・関心のあるものであれば、意欲を持って取り組むことができる。
- ・また、持続・継続して取り組むことができる。
- ・さらに、おもしろくなったり、自分の手の中に入ったりすると、そこから広がりを見せ、もっといろんなことを、あるいはもっと詳しく、奥深く調べてみたい、知りたいと思ったり、感じたりしてくる。
- ・その他のことにも目が向くようになり、学習及び興味・関心の中が広がる知らず知らずのうちに、様々な知識・教養・雑学を得ることができる。

2. 「水」と「森」は密接に繋がりが合っている。

3. 「水」は、「命のもと」なんだ。

4. 「生きる力」とは、「表現力」である。

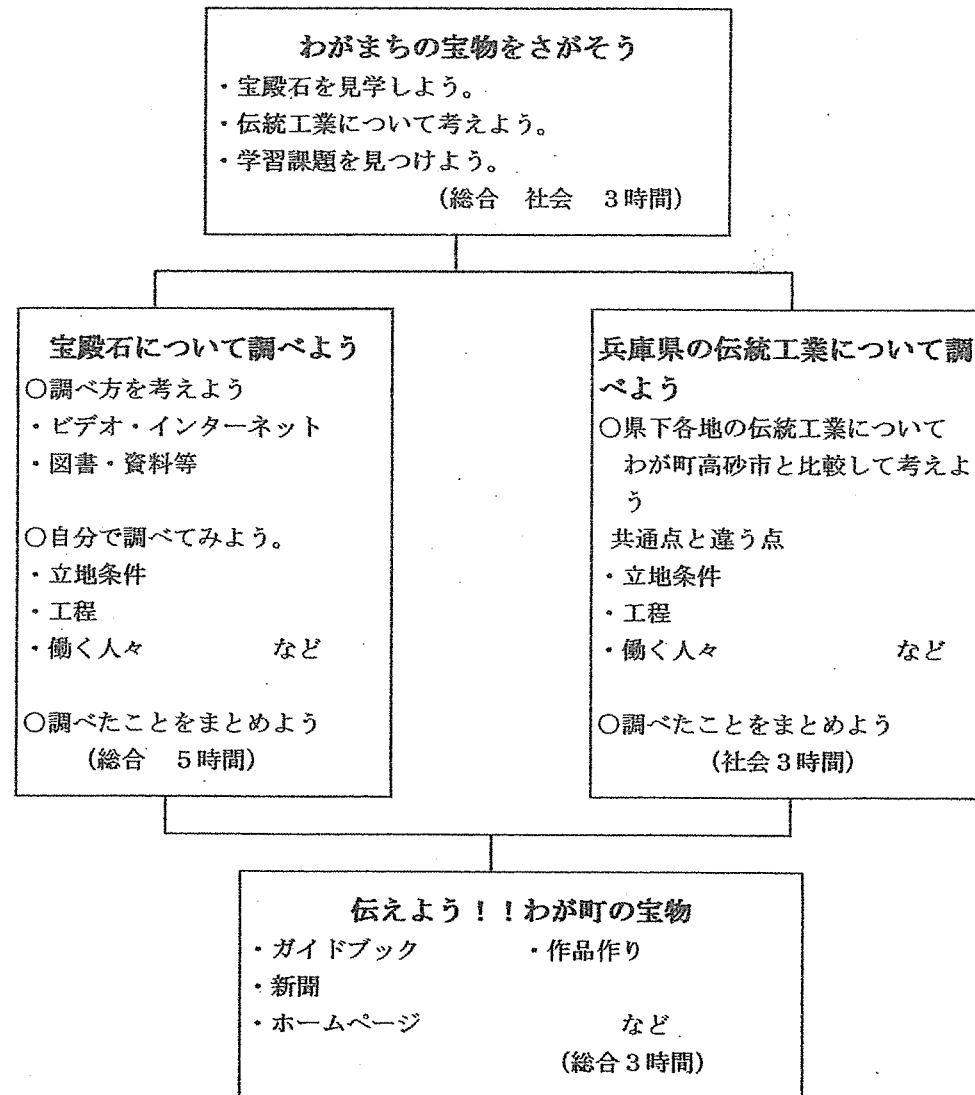
第4学年 総合的単元学習 (3学期)

1. 単元名 わが町ズームイン パート3 宝殿石

2. 単元目標

- 自分の住む高砂地域の伝統工業に興味をもち、課題を見つけることができる。
- いろいろな方法を通して見つけたり気づいたりした地域の伝統工業のよさなどをわかりやすくまとめ、表現方法を工夫し、知らせることができる。
- 自分の住む地域のすばらしさを再認識し、これから地域の一員として自分にできることを考える。

3. 単元構造図 (14時間)



4 評価基準

評価 観点	単元目標	評価場面	評価方法	子どもの姿としての現れ	支援の方向 改善の視点
関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	自分の住む高砂地域の伝統工業に興味を持ち、課題を見つけることができる。	わが町の宝物をさがそう。 兵庫県の伝統工業について調べよう。	発言 ワークシート 検索キーワード 質問 手紙	伝統工業を進んで調べてみようとする 進んで質問する 調べる方法を考える 質問の手紙を書く 身近にある伝統作品を探す	他市の伝統工業と比べさせてみる ビデオで宝殿石の採掘作業や製作工程を見せる 現代石器に触れさせる 採掘場見学 見学現場での説明
技 能 ・ 体 験 ・ 表 現	いろいろな方法を通して見つけたり気づいたりした地域の伝統工業の良さなどをわかりやすくまとめ、表現方法を工夫し、知らせることができる。	宝殿石について調べよう。 兵庫県の伝統工業について調べよう。 伝えよう、わが町の宝物	ワークシート キッズ・サイト検索 文章 絞り込み検索 部分選択印刷 ファイル保存	インターネット検索ができる。 検索結果をファイル保存できる 検索結果を範囲指定プリントできる 近くの店を探す 図書館で調べる マニュアルを見て、コンピュータ操作ができる	インターネット検索や「保存」「プリント」のマニュアル(取り扱い説明書)を作成し、使用させる WebSchoolの掲示板にキッズ検索サイトを登録しておく インターネットの画面にふりがなをつける マニュアルに図をつける
学び方 ・ 生き方	自分の住む地域のすばらしさを再認識し、これから地域の一員として自分にできることを考える。	伝えよう、わが町の宝物	発言 ワークシート 新聞 文章 プレゼンテーション 自己評価カード イメージ図 標語 ポスター	伝統工業に誇りを持ち、大切にしようとする 新しい宝殿石の作品をイメージする 昔と今の採掘場作業風景を比較する キャッチコピーを作る	石を愛する職人の心が伝統作品に夢を与え、伝統産業を続かせていることに気づかせる 技術の進歩が職人の夢を形にし、新しい作品を生み出していることに気づかせる

5 単元展開のポイント

学習を通じた児童の育ち

(ア) 興味関心

- ① 地域の伝統産業(宝殿石)への興味・関心が増した。
 - もっと石の種類を調べてみたい。
 - 他の石(神戸等)と比べてみたい。
 - 宝殿石は、どんな物にでもできる不思議な石だ。
 - いつも見ている宝殿石はこんなにすごい物だと知り、びっくりしました。

(イ) 技能

- ① インターネット検索ができるようになった。
 - 無いと思っていたのに、インターネットで調べると、石にも米みたいに名前があってビックリした。
- ② 調べることに興味を持った。
 - 全然気がついた事の無い事がよくわかった。調べるといいよ。
 - 調べてみると面白い。他の物も調べてみたい。

(ウ) 学び方・生き方

① 学び方

(イ) 知識の獲得

- a. 固有名詞
 - 石にも名前があると知った。
 - 色々な石があると知った。
- b. 用途
 - 姫路城に使われていると知った。
 - 総合体育館等身近に使われていると知った。
- c. 歴史
 - 宝殿石は昔から切っているとわかった。

② 生き方

(イ) 意識

- a. 色々な職場に目が向き始めた。
 - 近くにダイナマイトがあるのに、びくともしないで仕事をしている人達はすごいなあ～と思いました。
- b. 働く人の仕事への愛着に気づき始めた。
 - 5代目がいるのがすごいと思った。
- c. 伝統産業の価値を意識するようになってきた。
 - 宝殿石は役に立つのでこれからも大切にしたい。
 - 石は役立つのだなあと思いました。もっと石について色々な事を調べてみたいです。

(ロ) 関わり

- 関わり意識が育ち始めた。
- 石の湯呑をさわってみると、つるつるとして気持ち良かった。わたしも作ってみたいです。

(ハ) 視点

- 見方が変わってきた。
- 今まで何気なく見ていた石も、奥が深くて、色々な物になると分かった。

以上、五感を通しての体験活動(特に石の場合は、触ってみる)により児童の物の見方や自分なりの考え方が育ってきていると感じた。

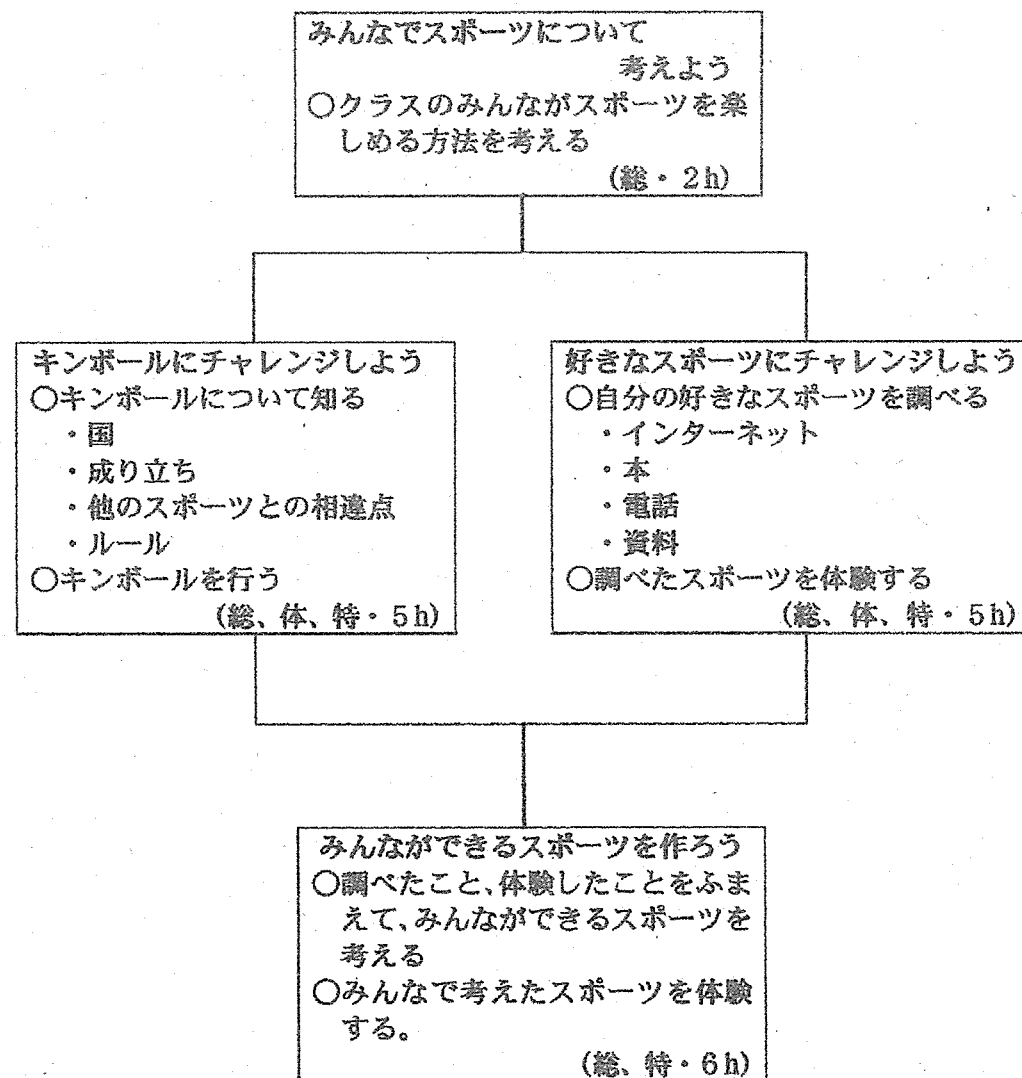
第4学年2組 総合的単元学習

1 単元名 I CAN スポーツ！！

2 単元目標

- スポーツに関心をもち、進んで学んだり調べたりすることができる。
- スポーツについて調べたり、体験したりしたことを、整理して、わかりやすく表現することができる。
- キンボールやいろいろなスポーツを体験することによって、スポーツを自ら楽しんで取り組むことができる。

3 単元構造図 (全 18 時間)



4. 評価基準

評価観点	単元目標	評価場面	評価方法	子どもの姿としての表れ	支援の方向、改善の視点
関心・意欲・態度	スポーツに関心をもち、進んで学んだり調べたりすることができる。	○みんなでスポーツについて考えよう ○キンボールにチャレンジしよう ○好きなスポーツにチャレンジしよう	○ワークシート ○つぶやき ○発言 ○観察	○共通体験などから疑問や課題を持つ ○スポーツを楽しむことに対して、問題意識を持つ ○スポーツに対する自分の課題に沿って、進んで調べようとする。 ○学習計画を立てる	○具体的場面の想起 ○具体的活動の提供 ○カンファレンス(指導者との対話) ○見通しの確認
技能・体験・表現	スポーツについて調べたり、体験したことを、整理して、わかりやすく表現することができる。	○キンボールにチャレンジしよう ○好きなスポーツにチャレンジしよう ○みんなができるスポーツを作ろう	○ワークシート ○つぶやき ○発言 ○観察 ○文章	○課題解決に役立つ情報を集める ○集めた情報から必要なものを選び、スポーツに対する自分の思いを持つ ○スポーツについてわかったことを、文・図・絵などを使って、相手にわかりやすくまとめる	○計画や解決方法のモデルを示す ○課題の想起 ○情報の意味調べを促したり、必要な箇所に線を引くなど、要点を整理しやすくさせる ○カンファレンス
生き方・学び方	キンボールやいろいろなスポーツを体験することによって、スポーツを自ら楽しんで取り組むことができる。	○みんなでスポーツについて考えよう ○キンボールにチャレンジしよう ○好きなスポーツにチャレンジしよう ○みんなができるスポーツを作ろう	○ワークシート ○つぶやき ○発言 ○観察 ○文章	○筋道を立てて話す ○スポーツに対する自分の思いをもとに話し合う ○みんなでスポーツを楽しむために、ルールを考える ○スポーツを楽しむために、自分だけでなく、他の人のことも考えて行動する大切さに気づく	○内容深まりの吟味 ○カンファレンス ○まとめや発表のメニューを示す ○適切な音量や速さを示す

5. 単元展開のポイント

○ みんなでスポーツについて考えよう

- ・ どうすれば、クラスみんながスポーツを楽しめるのかという課題を設定し、スポーツをしていて楽しいと感じるためには、「できる」ということが大切になることを示した。
- ・ 上記の課題を考える際、どんなことでもいいから思ったことを発表させることを意識した。

○ キンボールにチャレンジしよう

- ・ みんなが楽しめ、できるスポーツとして、キンボールを児童に紹介する形をとった。また、その際にニュースポーツの概念も少し話をした。子どもたちは、初めて知るスポーツ・ニュースポーツの考え方など興味を持って聞いていたように感じた。
- ・ キンボールを知るために、日本キンボール連盟のホームページを活用した。

<http://www.newsports21.com/kin-ball/>

- ・ 子どもたちは、毎回キンボールを楽しんで取り組んでいたように感じている。しかし、今まで経験したことのない試合の形式、ルールに最初は戸惑っていたように感じる。なので、しっかり教師側がルールなどを把握しておく必要がある。
- ・ キンボールを続けていく内に、体育が苦手な子、嫌いな子も笑顔で取り組むことができたり、次時を楽しみにする発言などが出てきた。改めて、教材としてのキンボールの素晴らしさを感じた。

○ 好きなスポーツにチャレンジしよう

- ・ 自分の好きなスポーツについて調べていく中で、そのスポーツについて、より詳しく知ることができ、児童たちは、以前とはまた違った形で自分の好きなスポーツと関わるできるようになったと感じる。
- ・ 時間数の関係で、個人で調べたものを全員で取り組むことができなかった。

○ みんなができるスポーツを作ろう

- ・ 現在、体育で行っているサッカーを基盤に、みんなが楽しめるようルールを毎時間、改善していった。
- ・ 体育の時間までに、1時間、ルール改善のための時間を確保した。そこで、前時で困ったことを挙げさせ、みんながサッカーを楽しむために学級会形式で討論させた。

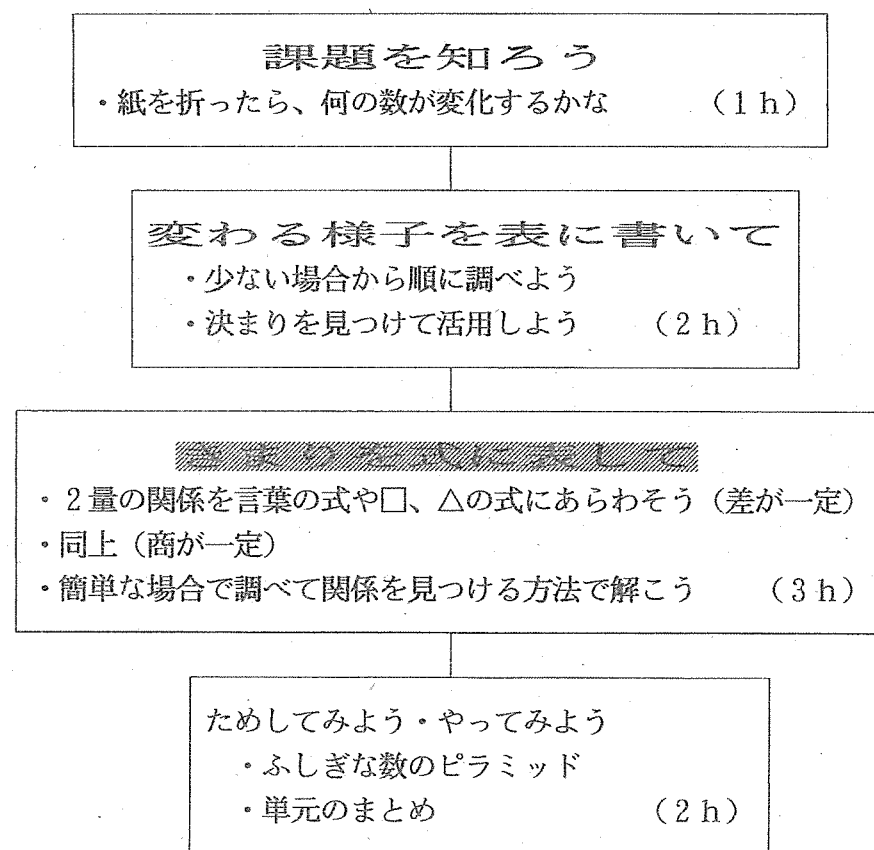
算数科単元学習指導案

1. 単元名 変わり方の決まりを見つけよう

2. 単元目標

- 伴って変わる2つの数量を見つけ、それらの関係を表や式を使って進んで調べようとする。
- 表や図から2つの数量のきまりを見つけることができる。数の少ない場合から順々に調べたり、簡単な場合で調べたりする思考法の良さに気づき、これを活用して問題を解くことができる。
- 表を用いて2つの数量の変わり方や対応に着目できる。2つの数量の関係を式に表すことができる。
- 表を用いて2つの数量の関係をとらえる仕方がわかる。2つの数量の関係を式に表す仕方がわかる。

3. 単元構造図（全8時間）



4. 算数科単元学習「変わり方の決まりを見つけよう」評価基準

評価観点	単元目標	評価場面	評価方法	子どもの姿としての表れ	支援の方向、改善の視点
関心・意欲・態度	伴って変わる2量についてその変わり方に関心を持ち2量の関係を調べようしたり、式に表す良さに気づいたりする。	課題設定 変わる様子を表に書いて 決まりを式に表して	観察 発言 ノート 自己評価カード つぶやき	2量の関係をいろいろな見方で考えようとする 友だちの気づきを認めながら自分なりの気づきを表現しようとする。	多様な考えの支持 意欲的な活動を生む発問・言葉かけ
数学的な考え方	伴って変わる2量の関係を表す表から決まりを考えたり、式で表したりして数量の関係を考えることができる。	少ない場合から順に調べ、決まりを見つけよう 簡単な場合で調べ、関係を見つけよう	観察 テスト ノート ミニテスト 発言	表を見て、決まりを見つけ出す 表を見て、関係を式に表そうとする。	関係を見つけ出せるような助言・発問
数量や図形についての表現・処理	伴って変わる2量について表や式に表すことができ、問題を解決できる。	決まりを見つけて活用しよう 2量の関係を式に表そう	観察 テスト ノート ミニテスト	2量の変わり方を表に書く。 言葉の式や□・△を使った式で表す。	具体的な指示
数量や図形についての知識・理解	伴って変わる2量について表や式を使って変化の決まりや数量の関係を調べる方法を理解している。	変わる様子を表に書いて 決まりを式に表して	観察 テスト ノート ミニテスト	表の書き方や変化の決まりの調べ方を理解する 言葉の式や□・△を使った式の利用について理解する。	変化のある繰り返しの反復

5. 活動のポイント

○教師の説明は、なるべく短く、一時に一事。（を心がけてはいる）

○視覚的にわかるような工夫をする。

○考える時間が長いのがいいとは思っていない。わからない子にとってはわからない時間が長くなる。わかる子だけが、あとで発表しあう形もとらないようにする。（全部のことに当てはまるとは思わないが）

○例えば「0に人をおいて考える」というのでも、「0の上側に点をうつ」のか、「0と書いてあるその線上に点をうつ」のかだけでも全く活動が違ってくる。そして、わかりやすさが変わってくる。似たような言葉でも、指示の言葉の少しの違いで子どもがスムーズに活動できたり、混乱したりする。いつも気をつけたい。

○その授業時間内に、似た問題を繰り返し練習することが大事なのでは、と思う。

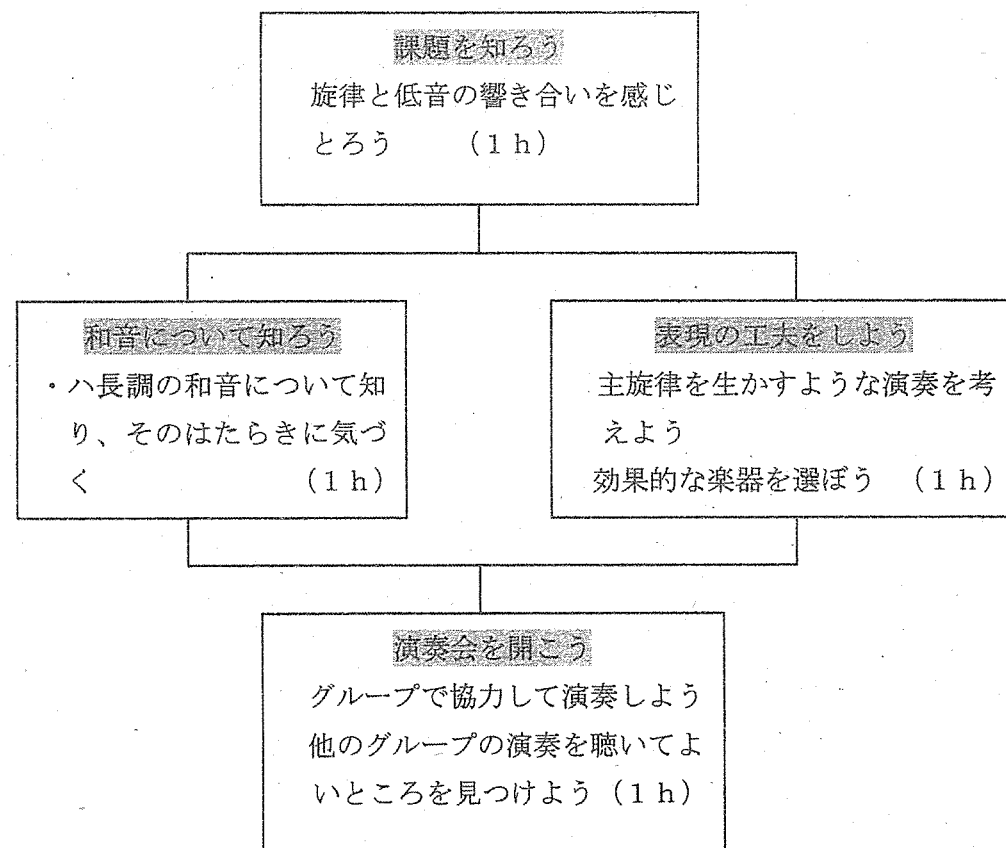
第5学年 音楽科単元学習

1 単元名 音の重なり

2 単元目標

- 音の重なりやつながりが生む響きの豊かさについて、友だちと協力しながらすすんで聴き取り、表現していこうとする。
- 楽器の音の調和する感じをとらえ、効果的な演奏の仕方を工夫する。
- 響きを豊かにするような、音の重なりを生かした表現の仕方ができる。
- 演奏の編成や、音色の違いから響きの変化やよさを聴き取ろうとする。

3 単元構造図（全4時間）



4 評価基準

評価観点	単元目標	評価場面	評価方法	子どもの姿としての表れ	支援の方向、改善の視点
音楽への関心・意欲・態度	音の重なりやつながりが生む響きの豊かさについて、友だちと協力しながらすすんで聴き取り、表現していこうとする	○課題を知ろう ○和音について知ろう ○表現の工夫をしよう ○演奏会を開こう	○発言 ○学習カード ○態度や表情の観察	○課題について関心をもつ ○和音について知ろうとする ○楽器の音色について興味をもつ ○グループで活動しようとする	○グループでの話し合いの方向性を示す ○演奏会のめあてを示す
音楽的な感受性や表現の工夫	楽器の音の調和する感じをとらえ、効果的な演奏の仕方を工夫する。	○課題を知ろう ○和音について知ろう ○表現の工夫をしよう ○演奏会を開こう	○発言 ○学習カード ○話し合い活動の観察 ○学習カード	○旋律を生かす低音の存在に気づく ○主旋律を生かす工夫をしている ○効果的な楽器を選んでいる ○音の強弱を意識している	○響き合いの違いに気づくようはたらきかける ○工夫したところを具体的に言えるようにまとめる
表現の技能	響きを豊かにするような音の重なりを生かした表現の仕方ができる	○表現の工夫をしよう ○演奏会を開こう	○表現活動 ○演奏場面の観察	○美しい音色で演奏する ○音の重なりを感じながら演奏する	○それぞれの楽器の美しい音色を示す ○音の強弱に関心をもたせるよう支援する
鑑賞の能力	演奏の編成や音色の違いから響きの変化やよさを聴きとろうとする	○和音について知ろう ○演奏会を開こう	○学習カード ○鑑賞カード ○学習カード ○行動観察	○和音の違いで響きが変わることを聴き取る ○他のグループのよいところを聴き取る	○ハ長調の和音について整理させる ○聴くポイントを示す

5 単元展開のポイント

(1) 単元設定の構想

ふだん何気なく聴いている音楽は、音の重なりでできているが、それを意識して聴き取ろうとしたり、自ら表現したりすることは、3, 4年生で経験してきているが、まだ十分でない。

そこで、5年生では「音の重なり」という単元にして展開を試みた。単元の中では、まず、旋律と低音について注目させ、課題提示とした。次に和音についてそのはたらきを知り、理論的な裏づけとし、また表現の工夫をグループで協力することで意欲を高め、表現方法の広がりや深まりを期待した。

最後に演奏会を開き、他のグループの演奏を聴くことで、音の重なりを深く感じ取らせることを目指した。

(2) 単元学習について成果と反省

音楽科の目標は、次のように設定されている

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を育てるとともに音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

上の目標を達成するために日々の学習活動があるが、各教材をこなすことで精一杯という状況では、目標を見据えて取り組んでいるとはいえない。

音楽科として教材を単元化して取り組むことで、自分自身の中で教材のもつ意味が見えてきたといえる。この教材でこの力をつけるとか、この力が足りないとか、などがはっきりとするということである。教材を見直すという点で良い機会になった。

音楽科の授業時数内で単元化して取り組むことはまだまだできていないが、これから必要に応じてやっていきたいと思う。

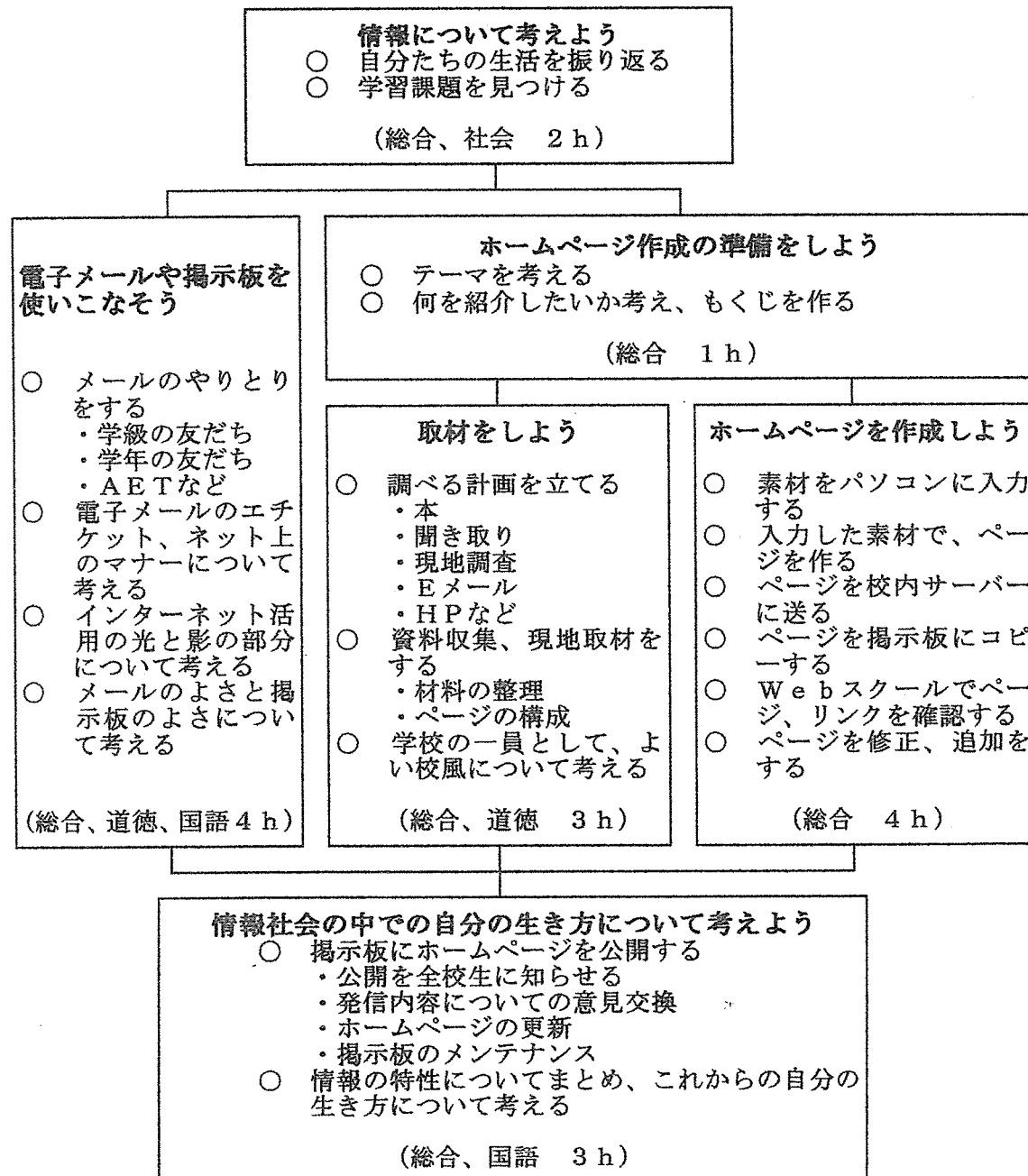
第5学年 単元学習（第2学期）

1. 単元名 「見つめよう わたしの生き方 ～情報を通して～」

2. 単元目標

- 情報に囲まれている自分たちの生活を振り返ることから、自ら課題を見つけ、進んで調べたり広げたりしようとする。
- 情報化の進展に伴って起こるさまざまな人権問題についての理解を深め、必要な価値ある情報を見分けたり責任ある態度で発信したりしようとする。
- 学習課題の解決に向けての活動を通して、情報に対して自分の意見をもつようにし、情報社会の中でこれからどのように生きていけばよいかを考える。

3. 単元構造図（全17時間）



4. 評価基準

評価観点	単元目標	評価場面	評価方法	子どもの姿としての表れ	支援の方向、改善の視点
関心・意欲・態度	情報に囲まれている自分たちの生活を振り返ることから、自ら課題を見つけ、進んで調べたり広げたりしようとする。	情報について考えよう 電子メールや掲示板を使いこなそう ホームページ作成の準備をしよう 取材をしよう ホームページを作成しよう	アンケート 行動観察 発言 つぶやき ワークシート 評価カード	情報に囲まれている生活を振り返ることから疑問・課題をもつ 情報生活への問題意識をもつ 学習計画を立てる 自分の課題解決のために、進んで追求しようとする	具体的活動の提示 ウエビング カンファレンス 見通しの確認
技能・体験・表現	情報化の進展に伴って起こるさまざまな人権問題についての理解を深め、必要な価値ある情報を見分けたり責任ある態度で発信したりしようとする。	電子メールや掲示板を使いこなそう ホームページ作成の準備をしよう 取材をしよう ホームページを作成しよう 情報社会での自分の生き方について考えよう	行動観察 発言 つぶやき ワークシート 作成ページ 作文 評価カード	課題解決に必要な資料の収集、取材をする 受信者の気持ちを考えながらわかりやすくまとめる 目的に応じた情報の取捨選択や発信の方法がわかる	追求の方向性の確認 具体的活動の提示 継続して課題追求できる場の設定 カンファレンス
学び方・生き方	学習課題の解決に向けての活動を通して、情報に対して自分の意見をもつようにし、情報社会の中でこれからどのように生きていけばよいかを考える。	電子メールや掲示板を使いこなそう ホームページ作成の準備をしよう 取材をしよう ホームページを作成しよう 情報社会での自分の生き方について考えよう	行動観察 発言 ディスカッション ワークシート 作成ページ 作文 評価カード	情報の特性についてまとめ、そのよさや責任の重さがわかる 情報に対する自分の意見をもとに討論する 情報社会でのこれからの自分の生き方について考える	内容的深まりの吟味 具体的活動の提示 豊かな学び合いの関わりを示し、価値付け、広める カンファレンス

5. 活動のポイント

活 動 名	活 動 の ポ イ ン ト な ど
情報について考えよう	<ul style="list-style-type: none"> 情報の種類が多く、多方面にわたって利用されていることなど、今までの情報に対する見方のずれから学習課題を見つける。 情報の特性に目を向けさせ、主体的に繰り返し調べたり追求したりする活動へとつなげていく。
電子メールや掲示板を使いこなそう	<ul style="list-style-type: none"> 試しメールの送受信後、問題点を話し合う。 情報モラルは共生のマナーとして不可欠であるという認識で指導。問題点ばかりを強調することなく、情報社会の光の部分についても学習させる。 参考資料 市内コンピューター研修会「インターネットの注意事項」 人権学習資料 ほほえみ「情報社会を生きる」の活用 ホームページ作成の新たな見方、効果的な調べ方などの情報が得られた。
ホームページ作成の準備をしよう	<ul style="list-style-type: none"> 学級のテーマ決定『学校のことをしょうかいしよう』児童の学習意識の流れを大切にテーマを修正。 課題別グループごとに発信内容、役割、目次を決定。 マイクロソフトキッズの活用（クリエイティブライター） 参考資料 図書室禁帯出 「インターネット活用アイデア101」全6巻（学研）
取材をしよう	
ホームページを作成しよう（研究授業）	
情報社会の中での自分の生き方について考えよう	<ul style="list-style-type: none"> 発信内容の感想、意見をメール交換することで、ページの更新、掲示板のメンテナンスへの活動意欲を継続させた。 自分の意見を明確にするために組み立てメモを作成。 情報社会の中でこれからどのように生きていけばよいかを考え、効果的な意見文を書く。

保護者への説明責任・協力体制について

本単元で身につける力、教科などでつける力との関係、家庭での支援のしかたなどを児童の活動や感想とともに学級便りで紹介。参観日に保護者にも校内掲示板を公開。

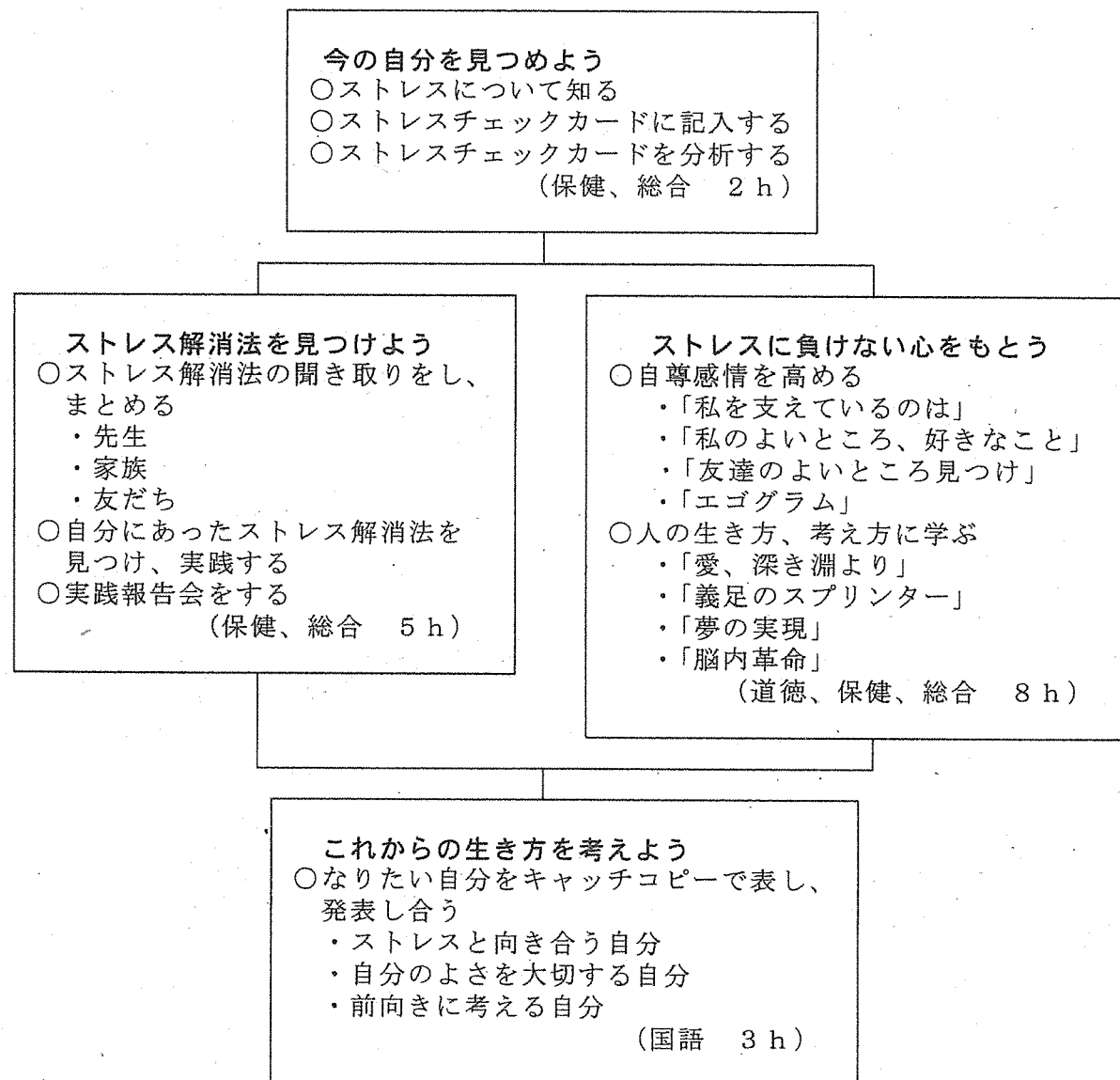
第5学年 単元学習 (第2学期)

1 単元名 「見つめよう わたしの生き方 ～ストレスと向き合って～」

2 目標

- 日頃の生活を振り返ったり、自分の心を見つめ直したりすることを通して、ストレスについて関心をもち、友だちと考えを深めながら、課題を解決しようとする。
- ストレスに関する学習を通して得た知識や考えをよくわかるように表現することができる。
- ストレスについての見方を深め、自分でできる方法で、ストレスをコントロールしながら前向きに生きていこうとする。

3 単元構造図 (全 18時間)



4 評価基準

評価観点	単元目標	評価場面	評価方法	子どもの姿としての表れ	支援の方向改善の視点
関心・意欲・態度	日頃の生活を振り返ったり、自分の心を見つめ直したりすることを通して、ストレスについて関心をもち、友だちと考えを深めながら、課題を解決しようとする。	今の自分を見つめよう ストレス解消法を見つけよう ストレスに負けない心をもとう	観察 ワークシート つぶやき 発言 自己評価カード	日頃の生活や自分の心を素直に見つめ直すことができる。 ストレスについて関心をもち、課題を見つけ解決しようとする。	心を落ち着け、自分の内面をまっすぐに見つめるよう助言する。 考え方や感じ方の違いを認め合う雰囲気作りをする。 カンファレンス
技能・体験・表現	ストレスに関する学習を通して得た知識や考えをよくわかるように表現することができる。	ストレス解消法を見つけよう これからの生き方を考えよう	観察 ワークシート 発言 文章 作品 自己評価カード	自分にあったストレス解消法を見つける。 自分のテーマを見つけ、考えたことをわかりやすく表現する。	学習したことや体験したこと、考えたことを生かした発表になるよう助言する。 カンファレンス
学び方・生き方	ストレスについての見方を深め、自分でできる方法で、ストレスをコントロールしながら前向きに生きていこうとする。	ストレス解消法を見つけよう ストレスに負けない心をもとう これからの生き方を考えよう	観察 ワークシート 発言 文章 作品 自己評価カード プレゼンテーション	ストレスを感じないような考え方を身につけたり、自分にあった解消法を実践したりできる。 ストレスに負けず、前向きに生きていく。	自分が周りの人のストレス原因にならないような生き方も考えさせる。 カンファレンス

5 単元展開のポイント

活 動 名	活 動 の 内 容
今の自分を見つめよう	<p>○ストレスとはどういうものかを知る。(養護教諭の話)</p> <p>○ストレスチェックカードに毎日自分の気分やストレスの原因について記入する。</p> <p>○ストレスチェックカードを見ながら、自分のストレスの原因をつきとめる。</p>
ストレス解消法を見つけよう	<p>○友だちや家族、先生方にストレス解消法を聞く。誰がどの先生に聞きに行くか、分担を決める。聞いてきたことをメモ用紙に書き込み、模造紙に貼っていく。</p> <p>○その中で自分に合った解消法を見つけ、実践する。</p> <p>○実践報告会を開く。その後、ストレスをためない方法として、自尊感情を高めたり、前向きに考えたりすることの大切さを知る。(養護教諭の話)</p>
ストレスに負けない心をもとう	<p>○自分を大切に思う気持ちを高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私を支えているのは」→たくさんの人々の愛情に支えられ今の自分があることに気づく。 ・「私のよいところ、好きなこと」→自分のよいところや好きなことをプリントにまとめ、参観日に自分のお母さんやお父さんに当ててもらうゲーム。 ・「友だちのよいところ見つけ」→クラス全員に自分のよいところを書いてもらい、自分の気づかなかった自分のよさに気づく。 ・「エゴグラム」→50の質問に答えると、自分の長所がわかるテストをすることで、自分のよさに気づく。 <p>○人の生き方や考え方に学び、前向きに生きることを大切さを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「愛、深き淵より」→星野富弘氏の生き方に学ぶ。 ・「義足のスプリンター」→荒木孝司氏の生き方に学ぶ。 ・「夢の実現」→山下清、エジソン、ウォルトディズニーの生き方に学ぶ。 ・「脳内革命」→春山茂雄の考え方に学ぶ。
これからの生き方を考えよう	<p>○これまでの学習を振り返るとともに、これからの自分の生き方を見つめ、心の支えや目標となる言葉をキャッチコピーで表し、発表し合う。</p>

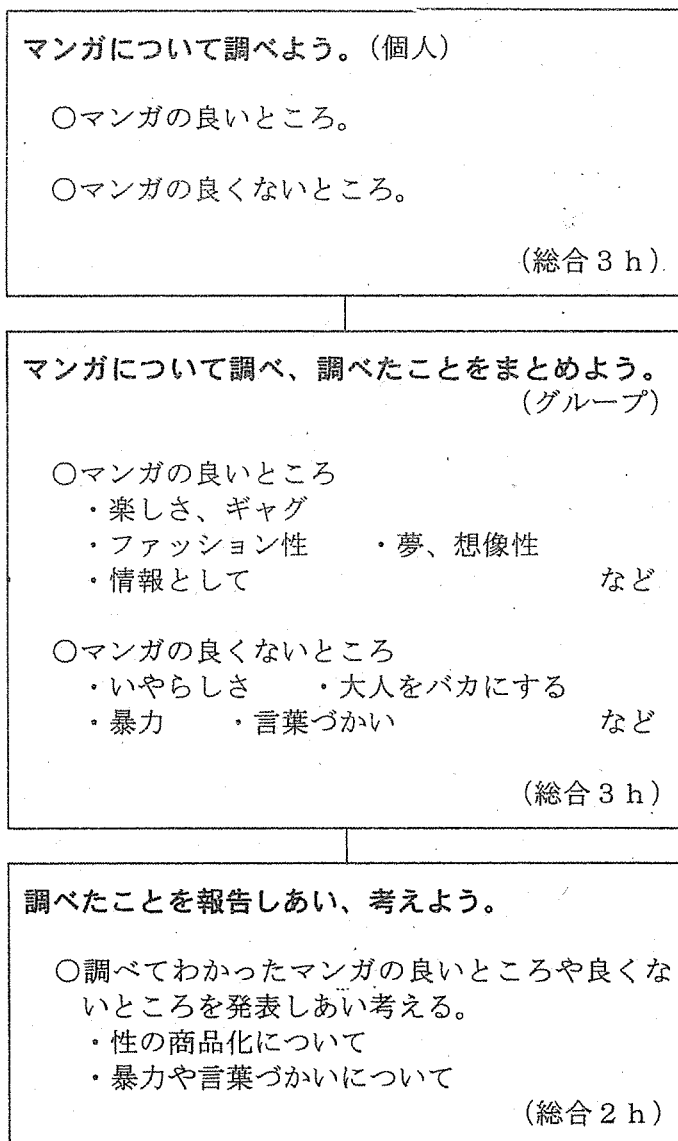
第5学年 単元学習（第3学期）

1. 単元名 「考えよう、いつも読んでいるマンガについて」

2. 単元目標

- マンガから得られる情報について、その良いところや良くないところを積極的に調べようとする。
- 自分を取りまくマンガからの情報を、自分なりに取捨選択する力を身につけ、自分が気づいたことをわかりやすく友達に伝える。
- マンガから伝えられるいろいろな情報に関して自分なりの考えをもち、自分や友達の生命やかからだを大切にしていこうとする。

3. 単元構想図（全8時間）



4. 評価規準

評価観点	単元目標	評価場面	評価方法	子どもの姿としての表れ	支援の方向・改善の視点
関心・意欲・態度	マンガから得られる情報について、その良い所や良くない所を積極的に調べようとする。	マンガについて調べてみよう マンガについて調べたことをまとめよう	行動観察 つぶやき ワークシート	マンガを意図的に読もうとする 課題を解決するために、いろいろな資料を使って進んで調べようとする	見通しを確認させる 指導者との対話により助言する
技能・体験・表現	自分を取りまくマンガなどからの情報を自分なりに取捨選択する力を身につけ、自分が気づいたことをわかりやすく友達に伝える。	マンガについて調べたことをまとめよう 調べたことを報告しあい、考えよう	行動観察 発言 文章 作品	課題を解決するために必要な情報を集める 集めた情報から必要な情報を選ぶ 集めた情報の価値を的確に判断する わかりやすく伝えるための工夫をする	もう一度課題を想起させる 解決方法の例を示す 追求の方向性を確認する 指導者との対話により助言する
学び方・生き方	いろいろな情報に関して自分なりの考えをもち、自分や友達の生命やかからだを大切にしていこうとする。	マンガについて調べてみよう マンガについて調べたことをまとめよう 調べたことを報告しあい、考えよう	行動観察 発言 文章 作品 ワークシート	マンガから得られる情報に対する自分の考えをもち、それをもとに話し合う 客観的に物事を見つめることの大切さに気づく 友達の生命やかからだについても考えることができる	指導者との対話により、内容の深まりを判断しながら助言する 声の大きさや速さについても助言する 自分のことだけでなく、周囲の人にも目が向けられるような視点を示す

5. 単元展開のポイント

題	独　　り　　言
失敗したナア	<p>○子ども達を取りまく様々な情報が氾濫している現在、子ども達に、「危険な情報や誤った情報がたくさんあることも知っておいて欲しい」という気持ちから、この単元を組もうと思った。本当は、マンガではなく、テレビに目を向けさせたかったが、時間的な余裕が無く、すぐ資料が手に入るマンガだけにしぼってしまった。特に目を向けてもらいたかったのは「性」の問題と「暴力」についてであったが、子ども達の「性」や「暴力」に対する意識をしっかりと把握せず、教師側の思いこみで単元を組んでしまったため、深まりに欠けるものとなってしまった。</p> <p>『子どもの現実から出発し、 子どもの現実には学ばなければならない』</p>
がんばらなきゃ	<p>○資料がマンガであったため、子ども達は意欲的に「マンガの良いところ」「マンガの良くないところ」を調べることができた。また、調べたことをまとめる時にも、自分達の力で、どう表現すればよりわかりやすいかを相談し、工夫していた。やはり、「調べたい」という気持ちにさせることが何よりも大切なことであると感じた。ただ、今回はマンガであったが、いつも子ども達が「調べたい」と思うものばかりを扱うわけにはいかない。</p> <p>『内容に関係なく、調べることが楽しい、表現することが楽しい、と思える土俵に子ども達を上げなければならない』</p>
元気が出るゾ	<p>○全体でも8時間という小さな単元だったため、最初の1時間と最後の2時間以外の5時間は、その時間の使い方を子ども達に決めさせた。心配ではあったが、子ども達は残り時間を考えながら、ある程度の見通しをもって作業を進めることができていた。グループの中で、自然とリーダーシップをとれる子も現れ、作業の分担なども上手にできるようになっていると感じた。</p> <p>『これから生きていくのに役立ちそうな力を、 子ども達は身につけてきている』</p>

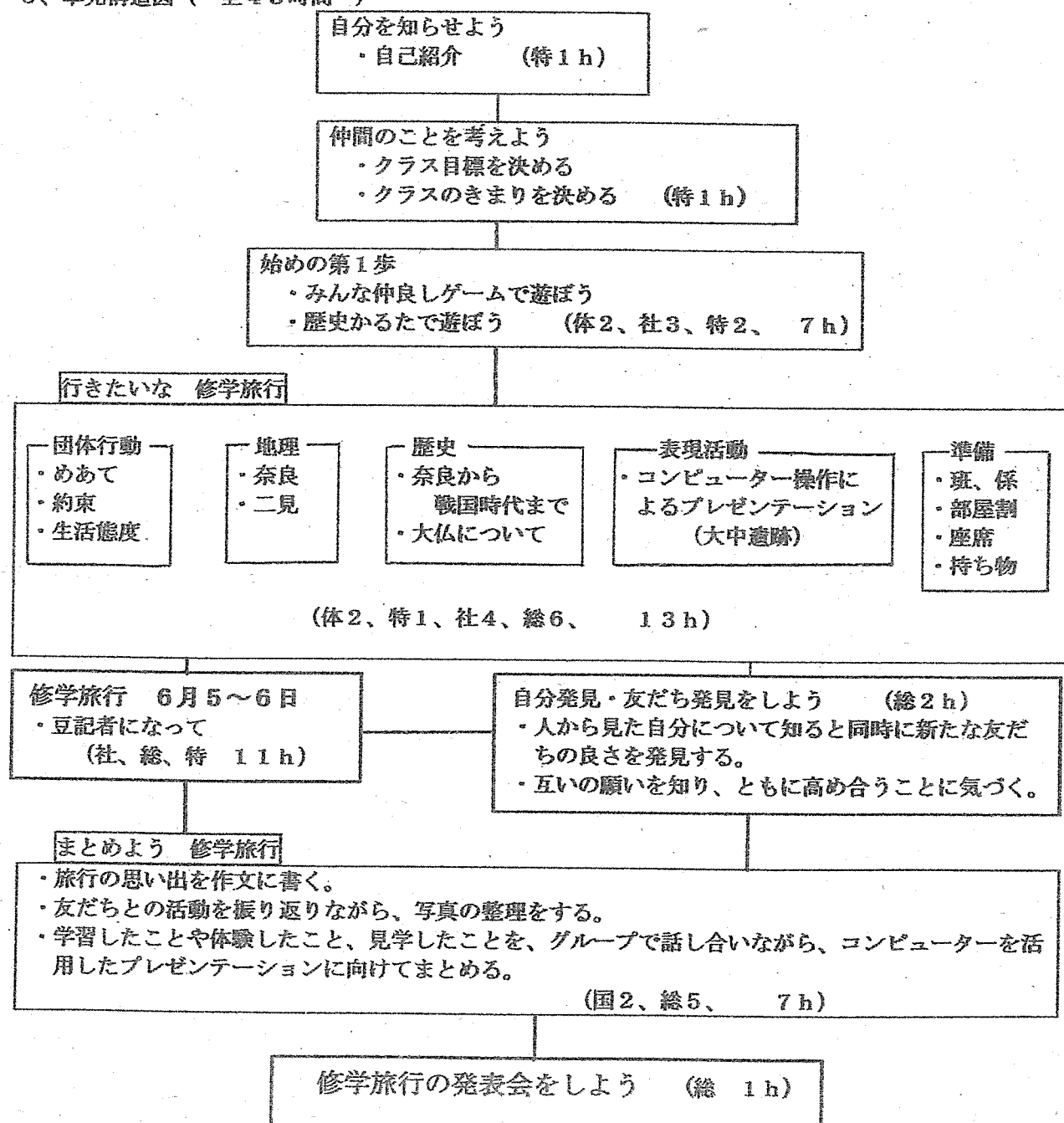
第6学年単元学習（第1学期）

1、単元名 修学旅行へ行こう

2、目標（単元目標）

- 史跡・文化財等を訪ね、歴史学習を深めるとともに、風土・地理などに関する学習も深めていこうとする態度を身につける。
- 体験したことや考えたことを様々な方法で表現できるようにする。
- 集団行動や友だちとの様々な活動を通して、自他の違いを認め合いながら、相手を思いやり、これからもよりよい関係を築いていけるようにする。

3、単元構造図（全43時間）



4、評価基準

評価観点	単元目標	評価場面	評価方法	子どもの姿としての表れ	支援の方向・改善の視点
関心・意欲・態度	史跡・文化財などを訪ね、歴史学習を深めるとともに、風土・地理などに関する学習も深めていこうとする態度を身につける。	課題設定 課題追求 行きたいな 修学旅行 修学旅行 まとめよう 修学旅行	観察・記録 ワークシート つぶやき 発言 自己評価カード パソコン操作	計画をたてる 問題意識をもつ 課題解決に役立つ情報を集める。	見通しの確認 支援の言葉かけ 具体的活動の提供 カンファレンス
技能・体験・表現	体験したことや考えたことを様々な方法で表現できるようにする。	課題追求 表現・伝達 自分を知らせよう 仲間のことを知らせよう 最初の第一歩 行きたいな 修学旅行 自分発見・友だち発見をしよう まとめよう 修学旅行	観察・記録 ワークシート ファイル プレゼンテーション (パワーポイント) 自己評価カード 身体表現 発表会 相互評価カード	クラス替えをしたばかりの雰囲気になごむ。 同じ素材を追求する子ども同士が情報交換したり、課題によって共同研究のグループを組み、積極的にコミュニケーションをとりながら、表現しようとする。 自分の得意な分野で能力が発揮できる。	追求の方向性の確認 課題の想起 カンファレンス 支援の言葉かけ
学び方・生き方	集団行動や友だちとの様々な活動を通して、自他の違いを認め合いながら、相手を思いやり、これからもよりよい関係を築いていけるようにする。	表現・伝達 発展・応用 ふりかえり 自分を知らせよう 仲間のことを考えよう 最初の第一歩 行きたいな 修学旅行 自分発見・友だち発見をしよう まとめよう 修学旅行	観察 自己評価カード 相互評価カード 保護者のメッセージ プレゼンテーション 毎日の自己点検表	友だちのよさを進んでみつけようとする。 周りの人の見方・考え方を知ることにより、幅広い考えをもつ。	支援の言葉かけ カンファレンス 積極的に友だちのよさを見つけお互いに高め合い、これからもよりよい関係を築いていけるように配慮する。

5、単元展開のポイント

活動名	ポイント
自分を知らせよう	クラス替えしたばかりの緊張した雰囲気をほぐすために、担任の自己紹介や、お互いの趣味や好きな食べ物やスポーツなどを言い合って、自分をアピールさせるようにもっていった。
仲間のことを考えよう	6年生になった喜びを忘れずに、最高学年としての自覚と責任を考えさせ、学級目標をつくった。そして、その目標達成のためのいくつかのルールも決めた。
始めの第1歩	学活や社会、体育の時間を使って、みんなが楽しめるゲーム（Sたん、けいどろ、野球、ドッジボール、歴史かるた）をして遊んだ。お互いがうちとけて仲良くなるように子どもだけにまかさずにクラスが盛りあがるように担任も努力が必要。特に歴史かるたは楽しみながら歴史上の人物を知ることができるので、歴史におおいに興味をもたせることができた。
行きたいな 修学旅行	修学旅行に行くために、まず団体行動の大切さを教え、約束事を守らせる。それに基づいていろいろ準備をすすめていった。 表現活動ではパワーポイントによるプレゼンテーションを考えていたので、予行演習として、大中遺跡に行ったときのデジカメの写真をはりつけて、レイアウトを考えて文章をパソコンで打ち、各自が発表するという操作を一度経験させておいた。
修学旅行	史跡・文化財を訪ね、先人の偉大さや外国の文化伝来の足跡を肌で感じ、昔からの日本との関わりを、教科書で学習したことやインターネットで調べたことと重なり合わせて、改めて再認識させることができた。
自分発見・ 友だち発見 をしよう	修学旅行に行くことによって、泊を共にした級友の今まで知らなかった良さが再発見できた。同時に自分のわがままが団体生活で通らないこともわかりしんぼうすることも覚える。その時に友だちの願いがわかり、共に高め合うような子になれば最高だが、これは1年間かけて繰り返し繰り返しの指導を必要とする。なかなか難しい。 その一つの方法として行った「いいとこさがし」では、友だちが見つけてくれたたくさんの自分の良いところから自尊感情が芽生え、同時に友だちも大切に思う気持ちが芽生えてきて、効果がある。また、それを家庭に持って帰って保護者のコメントをもらうことによって、自分の子が入からどう思われているかがよくわかって評判がよかった。
まとめよう 修学旅行	作文の中から、修学旅行で、どこの場所・場面のことをたくさん書いているかを参考にしてグループのタイトルを決めたが、奈良・二見マップだけはこちらが意図して発表に入れた。グループは自分がやりたいところに入った。コンピューターだけの発表では味気ないので、それに何か付け加えるように指示をしたら、劇、歌、ダンス、リコーダーBGMなど、すばらしい工夫ができていた。
修学旅行の 発表会をしよう	時間内におさまるか、リハーサル（教師と一つのグループ）を2回行った。子どもの作文の中で、「50分の授業なのに、もう一度一泊二日の修学旅行に行って来たいみたいでうれしかった。」というのがあった。思い出いっぱいの修学旅行を経験して、6年1組の良いスタートがきれたように思う。

感想 学級経営の難しさとやりがいのあるところ（どんな授業も根底は学級経営）
コンピューターだけが総合ではないが、パソコンをさわって慣れる経験は大きい

1. 単元名 人権について考えよう 6学年2組 林和也

2. 単元目標

- ・同和問題をはじめとする様々な人権問題を正しくとらえ、矛盾や不合理を見ぬき許さぬ心を育てるとともに、人権尊重の視点で、自ら課題を見つけ、解決しようとする意欲をもたせる。
- ・人権について調べたことや学習したことをもとに、人々の願いや自分の考えを表現することができる。
- ・戦争の恐ろしさや悲惨さ、人の命の尊さに気づき、自分たちができることを探りながら人と人とか豊かに共生していこうとする意識を高める。

3. 単元の構造図 (全 34h)

基本的人権について考えよう。
 ・人権って何だろう
 ・これからの学習計画を立てる
 ・「子どもの権利条約」について考える
 ・憲法をもとに基本的人権を調べる。
 (総合 2h)

戦争と平和について考えよう
 ・戦争を探ろう
 ・戦争の時代を調べる
 ・ヒロシマ、ナガサキ、オキナワについて調べる
 ・自分たちの町の戦争について調べよう
 ・平和と戦争問題と国際関係について調べる
 ・平和へのメッセージを讀みとろう
 ・戦争に関する本や平和への願いのこめられた本や資料を集める
 ・ロウ、ミンヌンさんの話をきく。(チヂミ作り)
 (社会、総合 12h)

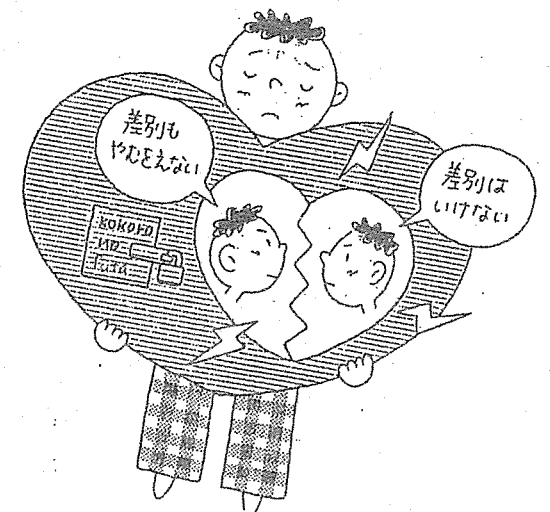
同和問題について考えよう
 ・歴史的事実から同和問題について知る
 ・ともに生きる社会、時の嵐
 ・二人のクロー
 ・山の狼
 ・七人の命
 ・淡路の一本松
 ・解放の足跡を調べる
 ・解放令
 ・曙の誓い
 ・水平社宣言 西光の吉
 ・同和对策事業特別報告書
 ・みのり会館 見学
 (社会、国語、総合 12h)

いろいろな人権問題について考えよう
 ・いろいろな人権問題を想起する
 ・在日外国人・障害者・女性・高齢者・エイズ患者・被爆者 など
 ・課題別学習
 ・調べた人権問題について資料集め、聞き取り
 ・まとめたことを発表する
 (道徳、総合 6h)

身のまわりの人権について考えよう
 ・自分のまわりから問題を見つける
 (いじめ、偏見、矛盾、不合理など)
 ・身のまわりの問題について、これからの自分のあり方を考える
 (道徳、総合 2h)

4. 評価基準

評価観点	単元目標	評価場面	評価方法	子どもの姿として	支援の観点から
関心・意欲・態度	同和問題をはじめとする様々な人権問題を正しくとらえ、矛盾や不合理を見ぬき許さぬ心を育てるとともに、人権尊重の視点で、自ら課題を見つけ、解決しようとする意欲をもたせる。	戦争と平和について考えよう 同和問題について考えよう いろいろな人権問題について考えよう	発言 つぶやき 観察 ウェブ	同和人権問題の中で矛盾や不合理に対し、憤りや許さぬ心を持つ。 自分の課題を見つけ、解決しようとする。	同和人権問題の歴史的背景を充分に補足する。 同和人権問題について多様な情報を提供する。 カンファレンス
技能・体験・表現	調べたことや学習したことをもとに、人々の願いや自分の考えを表現することができる。	戦争と平和について考えよう 同和問題について考えよう いろいろな人権問題について考えよう	発言 ワークシート 具体的表現 自己評価	自分なりの考えを見せ、人々の願いや自分の考えを表現する。	表現方法の工夫に向けてアドバイスをする。 カンファレンス
学びの生き方	戦争の恐ろしさや悲惨さ、人の命の尊さに気づき、自分たちができることを探りながら人と人とか豊かに共生していこうとする意識を高める。	戦争と平和について考えよう 同和問題について考えよう いろいろな人権問題について考えよう	発言 ワークシート 自己評価 具体的表現	戦争の恐ろしさや悲惨さの事実を正しくとらえ、平和のために自分は何ができるかを考える。	過去の戦争のみならず、現在の地球上で起きている様々な戦争や紛争について情報を提供する。 カンファレンス



5. 単元展開のポイント

◇6年生の2学期に最適の大切な有意義な単元になった。

☆「戦争と平和について考えよう」

- 平和学習で「広島」に行かなくても充分学習を深めることができる好資料あり！（身近な方の体験談）
- 「特攻隊」を題材にした「すみれ島」（今西祐行作）は短い作品だが強烈なインパクトがあった。
- 国語科の教材「川とノリオ」とセットに進めていくことでさらに効果あり。

✿「同和問題について考えよう」

- 「二人の夕陽」「山の粥」「染め一揆」「曙の誓い」等 学年合同での一斉授業はとても効果的だった。
- 「七分の一の命」という教材は教材そのものについていろんな意見が出たが子どもたちに差別のひどさを考えさせる上でいい教材であると思う。
- 学習のまとめで見学したみのり会館で聞いた話はとてもわかりやすく子どもたちの心に響く内容だった。

♡「いろいろな人権問題について考えよう」

- 人権問題をグループで調べ発表する会ではパソコンを使っ
ての発表も良かったが、ペーパーや模造紙に書いての
発表もとても良かった。模造紙は学習後にろう下等に
掲示でき、学習内容を広めることもできた。

☆「身のまわりの人権について考えよう」

- せっかく人権の学習をしても、実際の学校生活の中のいろんな場面で人の心を傷つける言動が見られる。やはり、積み重ねながら行きつ戻りつ学習していくことが大切だと思う。
- 2学期で人権を学習していれば3学期「命」「平和」「成長」などのテーマでの問題が出しやすく学習しやすい。
- 「権利」だけでなく人として果たさなければならない「義務」も同時に考えていく必要がある。

「回し読み」の効用

- 短時間で文章を集中して読むことで脳が活性化。
- 全員の意見を読んで多様な意見を主体的に知れる。
- 自分の意見を全員が読んでくれるという安心感を体験。

「そのバリエーション」

- ・全員回し読み
- ・クラス回し読み
- ・2つの班回し読み
- ・おすすめチェック
- ・コメント付

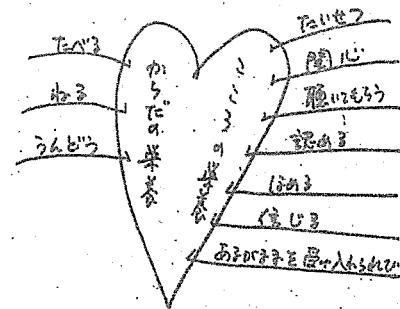
★問題点

やはり読む時間の短かさかな？

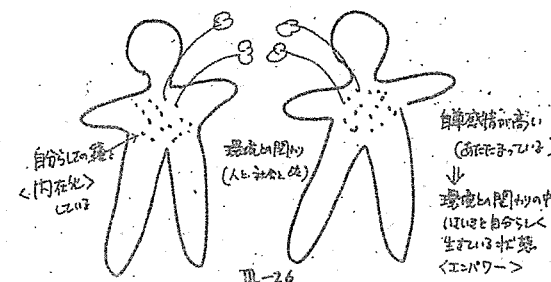
大阪YWCA教育所長さんの金香百合さんが考えられた人間理解の図です。「人権」を考える上でとてもわかりやすい図ですよ。

金香百合の人間理解 (201)

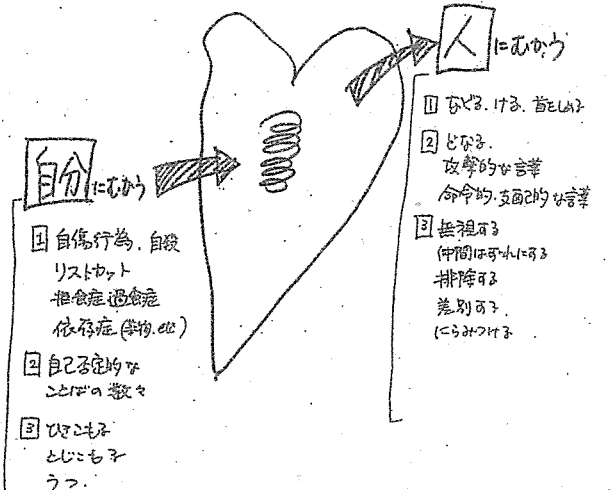
① 人間に必要なふたつの栄養



② 栄養が足りないと → 自尊心が高まり
エンパワメントが実現する



③ 栄養が不足すると → 暴力性が出てくる



暴力にはいろいろある

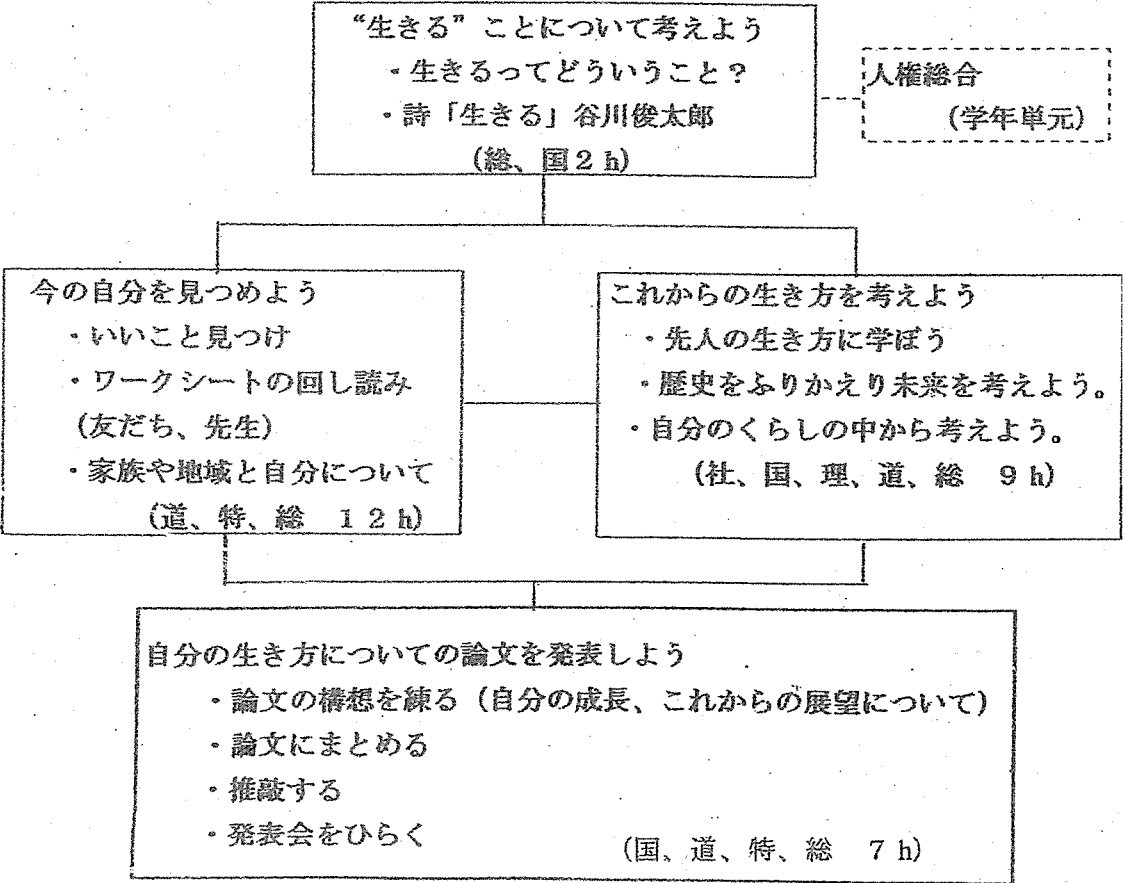
1. 肉体的暴力
2. 言葉による暴力
3. 精神的暴力
4. 経済的暴力
5. 社会的暴力
6. 性的暴力

第6学年 単元学習 (2学期)

1. 単元名 「生きる」
～しっかりと自分の道を歩むために～

2. 単元目標
- 6年生の今の自分を見つめ、周囲の人々に感謝の気持ちをもちながら自分の生き方をさぐっていかこうとする意欲をもつ。
 - 周囲（友だち・先生・家族・先人等）の意見を聞きつつ、しっかりと自分の歩む道について、自分の考えを文章や発表で表現する。
 - これからの生き方についての展望をもち、それを友だちに伝えることを通して、認め合う仲間作りを進めるとともに、家族の一員としての自分のあり方や友だちの大切さを知り、よりよい方向に歩もうとする気持ちを高める。

3. 単元構造図 (全30時間+課外)



4. 評価基準 単元名「生きる」

評価観点	単元目標	評価場面	評価方法	子どもの姿としての表れ	支援の方向、改善の視点
関心・意欲・態度	6年生の今の自分を見つめ、周囲の人々に感謝の気持ちをもちながら自分の生き方をさぐっていかこうとする意欲をもつ。	「生きる」ことについて考えよう。 今の自分を見つめよう。 これからの生き方を考えよう。 論文を書こう。	観察 つぶやき 発言 ウェビング 自己評価	「生きる」ということを意識し、6年生での自分の生き方を考える。 自分の課題を見つけ、解決しようとする。 周囲に学ぼうとする態度を培おうとする。	「生きる」ことに関するさまざまな資料を提供する。 カンファレンス
技能・体験・表現	周囲（友だち・先生・家族・先人等）の意見を聞きつつ、しっかりと自分の歩む道についての考えを文章や発表で表現する。	「生きる」の詩を読み、自分で詩を作ろう。 今の自分を見つめよう。 これからの生き方の指針を先人や歴史、今のくらしの中から見つけ、学びとろう。 発表会をしよう。	発言 観察 ワークシート 論文 ウェビング 自己評価	自分のいこれからの生き方をさぐる上で、参考となる人物や出来事を調べ、学び、自分の考えをもつ。 発表会にむけて、論文にまとめる。 友だちの前で自分の論文を発表する。	情報や自分の学びについて、効果的な表現の工夫について助言する。 著名人の伝記について数多く資料を提供する。 カンファレンス
学び方・生き方	今後の生き方の展望をもち、友だちに伝えることを通して、認め合う仲間作りを進め、家族の一員としての自分や友だちの大切さを知り、よりよい方向に歩もうとする気持ちを高める。	「生きる」ことについて考えよう。 今の自分を見つめよう。 これからの生き方を考えよう。 自分の生き方についての論文を発表しよう。	ワークシート 発言 観察 自己評価 論文 家族の感想	これからの自分について、具体的な考えをもち、努力していかこうとする。	カンファレンス 内容的深まりの吟味

5. 単元展開のポイント

＊歴史上の人物や著名人をタイムリーに紹介し、その生き方に興味を抱かせるようにした。

- ・文献
- ・ビデオ
- ・伝記

＊資料の紹介

生き方を学んだ人々

(著名人)

田中正造・野口英世・西光万吉・野口健(登山家)・織田信長・豊臣秀吉・徳川家康
キュリー夫人・伊能忠敬・与謝野晶子・宮沢賢治・田村亮子・田中耕一(ノーベル
賞)野依良治(ノーベル賞)・イチロー(この他に、一人1冊伝記を読んだ)

(身近な人々)

クリス先生・友だち・親・きほちゃんとその両親・先生方・給食調理員の方々

(その他)

ロミオ(ロミオの青い空の主人公)・アン(赤毛のアンの主人公)・「世界で1番の贈り物」の物語に出てくる夫婦

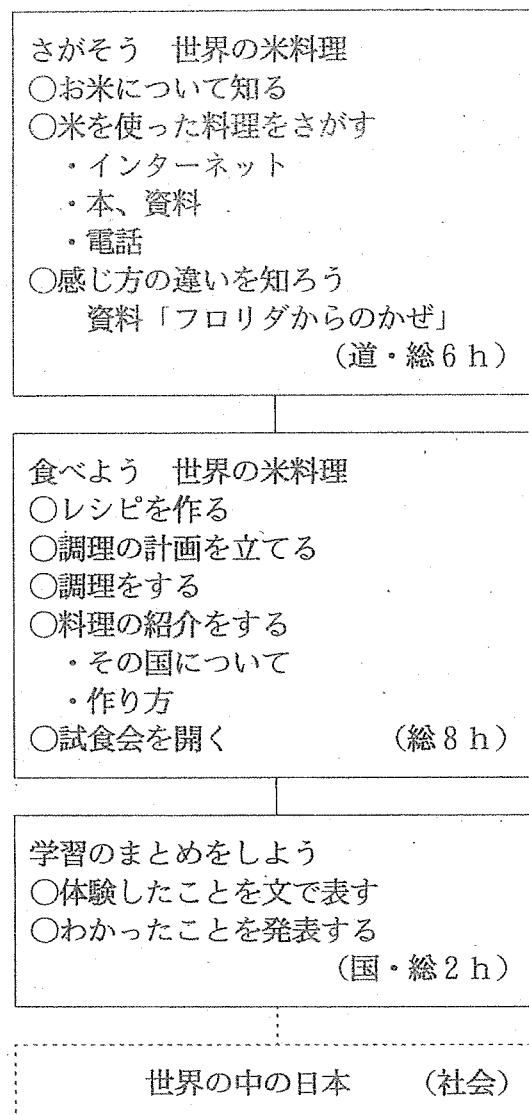
＊ 小学校最終学年である6年生ということで、今後に関立つ単元にしたいと思った。ビデオは、その人物の生きた状況を年代を追って描いているので、児童にわかりやすく、効果的であったと思う。また、有名な人だけでは、自分の人生とかけ離れてしまうと感じられたので、身近な人やお話の主人公からも学ぶことによって、自分を主人公にして生きるんだという気持ちになっていったように思う。

児童も教師も楽しんで取り組めた単元だった。また、発表会の論文は、一人5～8枚で、苦労はあったが力作になった。友だち同士で聞きあうことで、その労は報われ、家族にも論文を聞いてもらって達成感がもてたようだ。

4 評価基準

2 單元目標

- 3 单元構造図 (全 16 時間)



評価観点	単元目標	評価場面	評価方法	子どもの姿としての表れ	支援の方法改善の視点
関心 意欲 態度	自分たちの暮らしに身近な「米」や「米料理」についてすすんで調べ、友だちと協力しながら調理の計画や発表の準備を進めていこうとする。	さがそう 世界の米料理 食べよう 世界の米料理 学習のまとめをしよう	観察 発言 ワークシート 自己評価カード	課題について関心をもつ 自分なりの方法で調べ、表現する 計画を立てる	見通しの確認 具体的活動の提供 カンファレンス
技能 体験 表現	世界の米料理そのものを学ぶと共に、その国と日本との共通点や相違点及びその国の文化なども調べて、感じたことを自分なりに言葉で表現することができる。	さがそう 世界の米料理 食べよう 世界の米料理 学習のまとめをしよう	ワークシート 観察 自己評価カード 発言 プレゼンテーション 調理・試食会	活動の準備ができる 情報を集める 集めた情報から必要なものを選び、まとめる わかったことを相手にわかりやすくまとめる	課題の想起 適切な音量や速さを示す 具体的場面の想起 カンファレンス
学び方 生き方	調べたことや体験したことをもとに、さらに世界の様々なことに目を向け、追求していこうとすることができる。	さがそう 世界の米料理 食べよう 世界の米料理 学習のまとめをしよう	文章 自己評価カード 発言	体験から自分の思いをもつ 多様な方法を使って、課題解決につながる情報を集める 情報を考察する	発展的課題の発見 カンファレンス

5 単元展開のポイント

- ・導入時に各家庭の夕食調べや世界の米事情に関するクイズをして、「米」に興味を持てるようにした。
- ・「世界の米料理」を調べるに当たり、3つの方法を取り入れた。
 - インターネット・・・情報が簡単に素早く大量に得られる。
 - 図書資料・・・・・・・自分で情報を取捨選択する力がつく。
 - 電話・・・・・・・・・・直接話すことで、温かい言葉をかけてもらったりして、コミュニケーションが取れた。情報は得にくいがその分喜びを感じていた。開店前や繁盛時には、取り合ってもらえなかったもので、活動時刻については注意が必要だった。
- ・6種類の献立を作ることにしたが「食べたい料理」を選んだので、同じ国の料理があって、国調べについては重なった班があった。
- ・調理については事前に家庭で作ってみるようにした。家族とともに楽しみながらできた児童もいた。その分、調理実習で少しは手際よく作れたと思う。
- ・参観者もあったので、各班8人分（計48人分）を作ったが多すぎた。
- ・料理紹介と試食会で1時間（60分）を取ったが、パソコンルームから家庭科室への移動もあって慌ただしくなってしまった。
- ・活動の一つとして「みんなでごはんを食べようコンテスト」に全員で応募した。

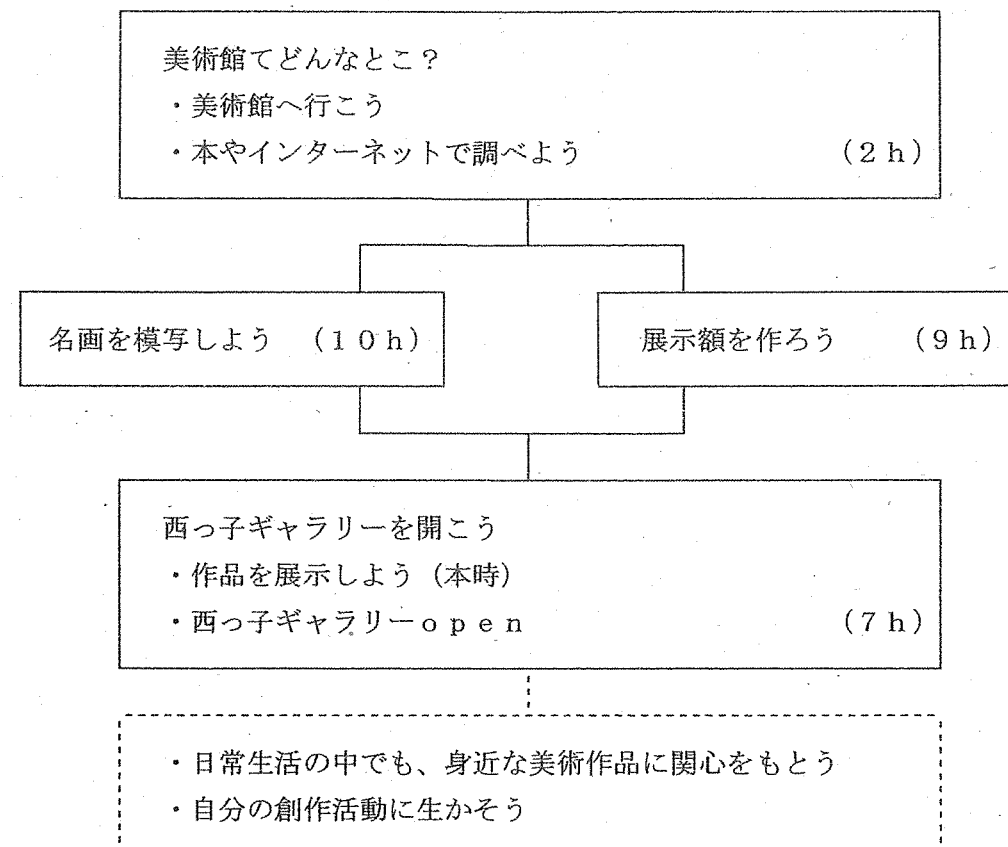
図工科単元学習（6年3学期）

1 単元名 「西っ子ギャラリーへようこそ」

2 単元の目標

- いろいろな画家の作品について知ることを通して、画家の生き方に興味をもったり、多彩な表現に興味をもったりする。
- 適切な材料や用具、表現方法を考えて、模写したり額を作ったりするとともに、見通しを立てて作品を展示したりする。
- 表現のよさや美しさなどを感じながら模写したり、鑑賞者の立場になって作品を展示したりする。
- いろいろな名画の表現の違いや作品の背景に興味を持ち、日常的に美術作品に親しもうとする。

3 単元構造図（全28時間）



4. 評価基準

観点	単元目標	評価場面	評価方法	子どもの姿としての表われ	支援の方向 改善の視点
関心・意欲・態度	いろいろな画家の作品について知ることを通して、画家の生き方に興味をもったり、多彩な表現に興味をもったりする。	○美術館でどんなところ？ ○名画を模写しよう ○展示額を作ろう ○西っ子ギャラリーを開こう	○ワークシート（文章・スケッチ） ○行動観察（制作に取り組む姿・情報の集め方） ○発言（発表・呟き）	○美術館へ行ったり画集などを探したりして、自分の好きな作品に関心を寄せる。 ○学習計画を立てる。 ○自分なりの考えや感じたことをまとめる。	○具体的場面の想起 ○適切な資料の提供 ○カンファレンス
発想や構想の能力	適切な材料や用具、表現方法を考えて、模写したり額を作ったりするとともに、見通しを立てて作品を展示したりする。	○美術館でどんなところ？ ○名画を模写しよう ○展示額を作ろう ○西っ子ギャラリーを開こう	○制作記録（文章・スケッチ） ○作品 ○行動観察（制作に取り組む姿・情報の集め方） ○発言（発表・呟き）	○調べたい情報の検索の仕方を考える。 ○材料や表現方法などの計画を立てて描く。 ○額の役割をふまえて、計画的に制作する。 ○展示場面を想定して、展示方法や作品に添える資料を考える。	○計画や見通しの確認 ○情報収集の仕方の示唆 ○多彩な資料の提供 ○カンファレンス
創造的な技能	表現のよさや美しさなどを感じながら模写したり、鑑賞者の立場になって作品を展示したりする。	○名画を模写しよう ○展示額を作ろう ○西っ子ギャラリーを開こう	○制作記録（文章・スケッチ） ○作品 ○行動観察（用具の使い方・情報のまとめ方） ○発言（発表・呟き）	○画家の表現の特徴を自分の作品に生かす。 ○作品を鑑賞し、感じたことをまとめる。 ○既習の用具の使い方を生かして額作りを楽しむ。 ○鑑賞者にわかりやすい展示資料を作る。	○表現方法の吟味 ○用具や材料の扱い方の確認 ○情報のまとめ方の示唆 ○カンファレンス
鑑賞の能力	いろいろな名画の表現の違いや作品の背景に興味を持ち、日常的に美術作品に親しもうとする。	○名画を模写しよう ○西っ子ギャラリーを開こう	○制作記録（文章・スケッチ） ○行動観察（作品の見方・扱い方） ○発言（発表・呟き）	○名画の表現の違いに気づき、よさを感じ取る。 ○見つけたたり選んだりした作品を紹介する。 ○作品の背景にも興味をもち、そのよさや美しさを味わう。 ○友達の見方や感じ方に共感したり違いを感じたりする。	○計画や見通しの確認 ○情報収集の仕方の示唆 ○カンファレンス ○適切な資料の提供

5. 単元展開のポイント

単元全体を通して

前年度（5年生時）の『世界名画の旅』とリンクした学習活動である。『世界名画の旅』で、児童はいろいろな世界の名画に触れている。その次段階として、美術館やギャラリーで作品を鑑賞したり、興味を持った作品にもう一步踏み込んで向き合ったりできるようにと考えて、この単元を設定した。

美術館でどんなところ？

《ねらい》美術館の役割を知る。

《ポイント》・ 近隣に美術館が無く、学校のカリキュラムの中で児童が美術館を訪れることは難しいので、遠足などの機会に校外学習を設定するのが望ましい。
・ 保護者の協力が必要となるが、困難な場合には、インターネットや図書館、画集などを活用して調べさせる。

名画を模写しよう

《ねらい》いろいろな名画の、表現の違いやよさに気づく。

《ポイント》・ 『世界名画の旅』で調べた画家の作品の模写を希望する児童が多かったが、中には、技法的な問題で他の作品を模写した児童もあり、むしろ、いろいろな表現の違いに気づくチャンスにもなった。
・ 児童の興味と技能に対応できる様、画集などで豊富な資料を準備する。
・ 正確に描き写すことにこだわらず、作品をより深く見つめることを通して、そこに表れた画家の息吹を感じ取らせたい。

展示額を作ろう

《ねらい》・ 絵を額に入れる目的を理解する。

・ 用具を適切に使う。

《ポイント》・ 飾る絵を生かすデザインを考えさせる。

・ 彫刻刀で木彫をほどこす作業が主になる。安全に留意するのはもちろんのこと、目的に応じて彫刻刀を使い分けさせる。

西っ子ギャラリーを開こう

《ねらい》・ 自分の作品に愛着をもつ。

・ 鑑賞する人にわかりやすい展示の方法を工夫する。

《ポイント》・ 美術館の役割をふまえ、その中の展示活動に焦点をあてて作品展示の方法や作品に添える資料などを考えさせる。

・ 卒業を控えた時期に設定し、学習のまとめの場になるような展示活動を経験させる。

